



取扱説明書

DUAL BAND TRANSCEIVER

IC-2730
IC-2730D



この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。

また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

この取扱説明書には、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、FM/AM (受信のみ)を搭載したデュアルバンド(VHF/UHF)のトランシーバーです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

取扱上のご注意

- ◎ 使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎ 本製品は、厳重な品質管理のもとに、生産・出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、お買い上げいただいた販売店、または弊社サポートセンターへお問い合わせください。
- ◎ 電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

付属品について

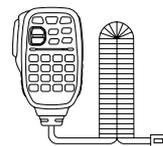
DC電源
ケーブル



コントローラー
ケーブル
(約3.5m)



マイクロホン
(HM-207)



- 取扱説明書(本書)
- 愛用者カード
- 保証書

ユーザー登録について

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要なります。付属の愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、投函してください。また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、<http://www.icom.co.jp/> にアクセスいただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ<http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

本製品のおもな特長と楽しみ方

本製品は、VHF(144MHz帯)とUHF(430MHz帯)のそれぞれによる電波伝搬の特長を生かした交信が楽しめます。

VHF帯/UHF帯の電波は直進性が高く、建物や山岳などによる減衰や反射で電波の強度が変化し、通信状態に影響を与えます。

通信状態への影響はバンドによっても異なり、ビルの中や市街地などでは影響を受けやすく、通信距離が大きく変化する場合がありますので、相手局に対して見通しのよい場所で運用することをおすすめします。

■ 144MHz帯の特長

144MHz帯は、VHF帯のメインストリートと言われています。

全国どこへ移動しても交信相手には困りません。

また、仲間との通話や連絡用としても役立ちます。

■ 430MHz帯の特長

レピータを使用すれば、電波が直接届かない局とも交信できるのが430MHzです。

電波法についてのご注意

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密について定められています。

※ 無線機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

※ 使用できるのは、日本国内に限られています。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けたりした場合は、ただちに電波の発射を中止して、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則

第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。 以下省略

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検(※P61)して、障害に応じて弊社サポートセンターや買い上げの販売店などに相談して、適切な処置をしてください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区南大塚3-43-1 大塚HTビル

TEL 03-3988-8754

はじめに

モーター運用上のご注意

- ◎ 本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎ 自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎ アンテナの同軸ケーブルからは電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎ 自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係 :燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係 :電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - その他 :ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎ 本製品を操作中、自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼしていることがわかった時点で、本製品の電源を切り、DC電源ケーブルを本製品から抜いてください。
- ◎ 自動車に本製品、および別売品を取り付けるときは、前方の視界や運転操作を妨げる場所など、運転に支障をきたす場所、同乗者に危険をおよぼす場所などには絶対取り付けしないでください。交通事故やけがの原因になります。
- ◎ 本製品、および別売品を取り付ける場合、安全運転に支障がないように(ケーブル等が絡まらないように)配線してください。
- ◎ モーター運用では、できるだけ送信出力を下げてください。送信により、多くの電流が流れると、バッテリー上がりの原因になります。
- ◎ エアバッグシステム装備車に本製品、および別売品を取り付けるときは、このシステムの動作に影響をおよぼす取り付けかたはしないでください。
- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎ 本製品を電気自動車やハイブリッドカーなどでご使用になる場合、これらの自動車に搭載されているインバーター、LED照明器具からのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

内部スプリアスについて

本製品の内部発振(スプリアス)により、受信できなかったり、雑音が発生したりする周波数もありますが、故障ではありません。このような場合は、MENUモードの「IF-EXC」(IF周波数入れ替え)項目の設定を変更すると回避することがあります。(※P14)

はじめに	i	4	メモリーチャンネルの使いかた	24	■ 車内への設置場所について	60	
取扱上のご注意	i	■ メモリーチャンネルについて	24	■ アンテナの接続	61	■ 電源の接続	62
登録商標/著作権について	i	■ チャンネルの呼び出しかた	25	10 別売品について	63	■ 別売品についてのご注意	63
付属品について	i	■ メモリー (M-CH/CALL-CH) への書き込みかた	26	■ 別売品一覧	63	11 Bluetooth®の使いかた	64
ユーザー登録について	i	■ メモリーチャンネル (M-CH) にバンクを割り当てる	28	■ Bluetooth®でできること	64	■ 電波干渉についてのご注意	65
個人情報の取り扱いについて	i	■ メモリー/バンクネームの入力	30	■ 電波法についてのご注意	65	■ 2.4GHz現品表示記号の意味について	65
本製品のおもな特長と楽しみ方	ii	■ メモリークリア (消去) のしかた	31	■ UT-133の取り付けかた	66	■ ペアリングのしかた	67
電波法についてのご注意	ii	5 スキャンについて	32	■ VOX機能の使いかた	68	■ その他のヘッドセット設定	70
電波を発射する前に	ii	■ スキャンについて	32	■ 最大ペアリング数について	71	■ 切断のしかた	71
モバイル運用上のご注意	iii	■ プログラムスキャンエッジの新規登録	34	■ ペアリング登録機器の削除のしかた	71	■ 初期化のしかた	71
内部スプリアスについて	iii	■ VFOモードのスキャン	37	12 定格	72	■ 一般仕様	72
安全上のご注意 (必ずお読みください)	v	■ スキップ周波数の登録と解除について	38	■ 送信部	72	■ 受信部	73
1 各部の名称と機能	1	■ メモリーモードのスキャン	39	13 リセット/困ったときは	74	■ リセットについて	74
■ 前面パネル (コントローラー)	1	■ スキップチャンネルの指定と解除について	40	■ トラブルシューティング	75	■ アフターサービスについて	77
■ ディスプレイ	2	■ 一時スキップの指定のしかた	40	■ パワープロテクト機能について	78	■ ヒューズの交換	78
■ 本体部	4	6 プライオリティスキャン	41	14 免許申請について	79	■ 無線局事項書の書きかた	79
■ HM-207 (リコンマイク) について	5	■ プライオリティスキャンについて	41	■ 工事設計書の書きかた	79	■ バンドの使用区別 (バンドプラン) について	81
2 MENUモードについて	8	■ VFOとプライオリティチャンネル	42	さくいん	82		
■ MENUモードの画面	8	■ VFOとメモリー/バンクスキャン	43				
■ MENUモードの階層	8	7 レピータ/デュプレックス運用について	44				
■ 設定項目の選択方法	10	■ オートレピータ機能での交信	44				
■ 各設定項目について	11	■ デュプレックス運用について	46				
■ MENU項目について	16	■ 送信時のオフバンド表示について	47				
3 基本操作のしかた	20	8 各種機能の使いかた	48				
■ MAINバンドの選びかた	20	■ ホームCHピープ機能について	48				
■ 運用モード [VFO/メモリー/コールチャンネル] の切り替えかた	20	■ DTMFメモリー機能の使いかた	49				
■ 運用バンド (周波数帯) について	20	■ DTMFコードの送出のしかた	50				
■ 周波数を設定する	21	■ トーンスケルチ機能	52				
■ 音量とスケルチを調整する	22	■ クローニングについて	55				
■ ロック機能の使いかた	22	9 設置と接続	57				
■ 送信出力を設定して交信する	22	■ コントローラーと本体の接続のしかた	57				
■ 受信モード (電波型式) を設定する	23	■ マイクロホンの接続	57				
■ 受信モニター機能について	23	■ 安定化電源の接続	58				
■ マイクゲインの設定	23	■ コントローラーの設置	58				

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にご使用いただくために、
必ずお読みください。

■ 本製品とUT-133(別売品)について

- ◎ 使用者、および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから、本文をお読みください。

△ 危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者、および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△ 警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者、および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△ 注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

お客様、または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

△ 危険

- ◎ **送信中は絶対にアンテナに触れないでください。**
感電、けが、故障の原因になります。
- ◎ **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
引火、火災、爆発の原因になります。
- ◎ **自動車などの運転中は、本製品を操作しないでください。**
交通事故の原因になります。
- ◎ **液晶ディスプレイが破損した場合は、液もれした液に触れないでください。**
液もれした液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

△ 警告

- ◎ **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ **湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に設置しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ **水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 警告

- ◎ DC電源ケーブルを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 定格以外の電圧は使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 付属、または指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
- ◎ 電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損して、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 電源ケーブルや接続ケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工をしたりしないでください。
傷ついて破損して、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 電源ケーブルや接続ケーブルを抜き差しするときは、ケーブルを引っ張らないでください。
火災、感電、故障の原因になりますので、プラグ、またはコネクターを持って抜いてください。
- ◎ 電源ケーブルや接続ケーブルが傷ついたり、DC電源コネクターの差し込みがゆるかったりするときは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
ケーブルに不具合が生じたときは、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにご連絡ください。
- ◎ 長時間使用しないときは、DC電源コネクターに接続している、DC電源ケーブルを抜いてください。
発熱、火災の原因になります。
- ◎ 電源プラグのピン、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。
火災、感電、故障の原因になります。

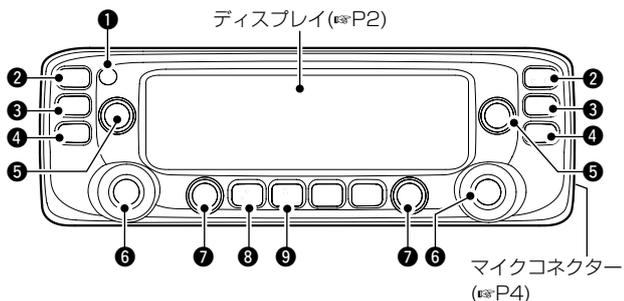
- ◎ この製品は完全調整していますので、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルのヒューズホルダーは、絶対に取りはずさないでください。
ショートして発火、火災などの原因になります。
- ◎ 指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。
- ◎ 製品の中に線材のような金属物や水を入れしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- ◎ 別売品を組み込む前やヒューズを交換する前に、電源ケーブルや接続ケーブルをはずしてください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 別売品を組み込むときやヒューズを交換するときは、説明と異なる取り付けをしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。
本製品にDC電源装置を接続しているときは、安全のためACコンセントから電源プラグを抜いてください。
また、アンテナには絶対触れないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所に設置、使用してください。
感電、けがの原因になります。
- ◎ 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のままで使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐにDC電源ケーブルを確実に抜いてください。原因等につきましては、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

安全上のご注意

⚠ 注意

- ◎ **ぐらついた台の上や、傾いたり振動の多い場所に設置したりしないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ **機器用プラグに金属片やゴミを付着させないでください。**
ショートして発火の原因になるおそれがあります。
- ◎ **直射日光の当たる場所に設置しないでください。**
火災、故障、変形、変色の原因になります。
- ◎ **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ **容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。**
送信中のアンテナは高電圧(数kV)になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ **マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。
- ◎ **ぬれた手で電源プラグやコネクターなどを絶対に触れないでください。**
感電の原因になることがあります。
- ◎ **放熱部に触れないでください。**
長時間使用すると放熱部の温度が高くなり、やけどの原因になることがあります。
- ◎ **長時間の連続送信はしないでください。**
故障、やけどの原因になることがあります。
- ◎ **製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ **製品の上に乗ったり、重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**
故障の原因になることがあります。
- ◎ **別売品を組み込むとき以外は、製品のケースを開けないでください。**
感電、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ 前面パネル(コントローラー)



① 電源 ミュートキー [P] (M)

キーを長く押しすごとに、電源をON/OFFします。
キーを短く押しすと、ミュート機能(消音)が動作します。

② メイン バンドキー [MAIN BAND]

キーを短く押しすと、メインバンドを設定します。

● VFOモード時の操作

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、バンド切り替え表示に切り替わります。(P20)

● メモリーモード時の操作

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、バンク切り替え表示になります。(P29)

③ VFO/MHzステップ スキャンキー [V/MHz SCAN]

キーを短く押しすと、VFOモードになります。(P20)

VFOモード時にもう一度短く押しすと、1MHzステップ表示に切り替わります。(P21)

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、各種スキャンの選択画面が表示されます。(P32)

④ メモリー コールキー [MR CALL]

キーを短く押しすと、メモリーモードになります。(P25)

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、コールチャンネルモードになります。(P25)

⑤ 音量ツマミ [VOL] (P22)

⑥ ダイヤルツマミ [DIAL]

● VFOモード時の操作 (P21)

周波数が変わります。

● メモリーモード時の操作 (P25)

メモリーチャンネルが切り替わります。

● スキャン中の操作 (P33)

スキャンの方向が変わります。

● MENUモード時の操作 (P10)

設定項目、設定値が切り替わります。

⑦ スケルチツマミ [SQL]

スケルチレベルを調整するツマミです。(P22)

⑧ モニター デュプレックスキー [MONI DUP]

キーを短く押しすごとに、モニター機能をON/OFFします。(P23)

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、DUP選択画面を表示します。(P46)

⑨ ローパワー DTMFキー [LOW DTMF]

キーを短く押しすと、送信出力を選択します。(P22)

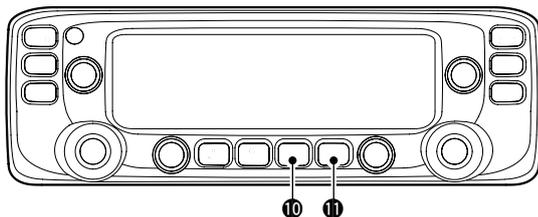
キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、DTMFの選択画面を表示します。(P49、P50)

【ご参考】

左側バンド操作時、右側バンド操作時でそれぞれのキー操作音が異なります。操作音の高低で、どちらのバンドを操作しているかがわかります。

1 各部の名称と機能

■ 前面パネル(コントローラー)(つづき)



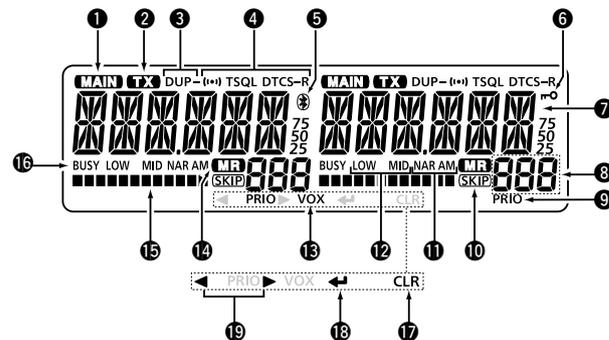
⑩ メモリーライトキー [MW]

- VFOモード時の操作
キーを短く押すと、メモリー書き込み画面が表示されます。
(☞P26)
キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、VFO周波数が空いているチャンネルに書き込まれます。(☞P26)
- メモリーモード時の操作
キーを短く押すと、メモリー編集画面が表示されます。
(☞P27)

⑪ メニュー ロックキー [MENU]

- キーを短く押すと、MENUモードに入ります。(☞P8)
- キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、ロック機能をON/OFFします。(☞P22)

■ ディスプレイ



① メインバンド表示

メイン側のバンドに表示されます。(☞P20)
メイン側のバンドだけ、送信ができます。
MENUモードは、MAINバンドに対して動作します。

② 送信表示(☞P22)

送信中に表示されます。

③ デュプレックス表示

デュプレックスモード時に表示されます。(☞P46)

④ 各種トーン機能表示(☞P52)

⑤ Bluetooth®表示

別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を搭載した本製品がBluetooth®対応機器とBluetooth®接続しているときに表示されます。(☞P64)

⑥ ロック表示

ロック機能ON時に表示されます。(☞P22)

⑦ 運用周波数表示部(☞P21、P25)

⑧ メモリーチャンネル番号表示部

メモリーチャンネル、メモリーバンク、コールチャンネル、MENUモードの項目などが表示されます。(P25)

⑨ プライオリティー表示

プライオリティースキャン中に表示されます。(P41)

⑩ スキップ表示

スキップが指定されたチャンネル(周波数)を選択時に表示します。(P38)

⑪ 受信モード表示(P23)

運用している受信モード(電波型式)を表示します。

⑫ 送信出力表示(P22)

送信出力の設定を3段階「LOW(低)」、「MID(中)」、「消灯(高)」で表示します。

⑬ VOX表示

本製品と別売品のVS-3(Bluetooth®対応ヘッドセット)がBluetooth®接続をしているとき、VOX機能をONにすると表示します。(P68)

⑭ メモリーモード表示(P20、P24)

メモリーモード時に表示されます。

⑮ S/RFMーター表示

受信時は、受信した信号の強さを表示します。

送信時は、RFレベルメーターとして表示します。(P22)

⑯ ビジー表示

受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。

モニター機能動作中は点滅します。(P23)

以下の3種類のキーは、MENUモードやメモリー書き込み画面で表示され、画面の下にあるキーを押して操作します。

⑰ クリアキー [CLR]

- MENUモード時の操作：

[MENU 

- 文字入力モード時の操作：

[MENU 

[MENU **⑱ エンターキー [↵]**

[MW]を押すと、MENUモードの選択内容を確定します。

⑲ 左右キー [◀]/[▶]

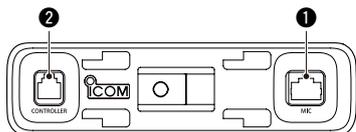
◀：[MONI DUP]を押すと、MENUモードの1つ上の階層に戻ります。

▶：[LOW DTMF]を押すと、MENUモードの1つ下の階層に進みます。

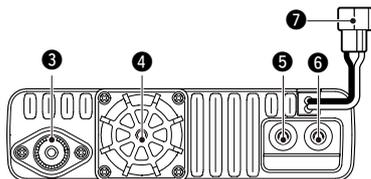
1 各部の名称と機能

■ 本体部

前面



後面



① マイクコネクタ

付属のマイクロホン(HM-207)、または別売品のマイクロホン(HM-154)を接続するコネクタです。

② コントロールコネクタ (※P57)

付属のコントローラーケーブルを接続するコネクタです。

③ アンテナコネクタ [ANT] (※P61)

アンテナを接続するコネクタです。インピーダンスが50Ωのアンテナを、M型コネクタで接続します。

本製品はデュプレクサーを内蔵していますので、市販のデュアルバンドアンテナ(144/430MHz帯)を、そのまま接続できます。

④ 空冷ファン

放熱用のファンです。

送信時自動的に動作させるオートと、電源ONと同時に動作する連続動作が、MENUモードで選択できます。(※P13)

⑤ SP1 (外部スピーカー)ジャック

⑥ SP2 (外部スピーカー)ジャック

外部スピーカーを接続するジャックです。インピーダンスは8Ωです。

スピーカーの接続と音声出力の関係は、下表をご覧ください。

外部スピーカー 接続条件	音声出力		内部スピーカー
	SP-1	SP-2	
SP-1+SP-2	左バンド	右バンド	-
SP-1のみ	両バンド	-	-
SP-2のみ	-	右バンド	左バンド

⑦ 電源コネクタ

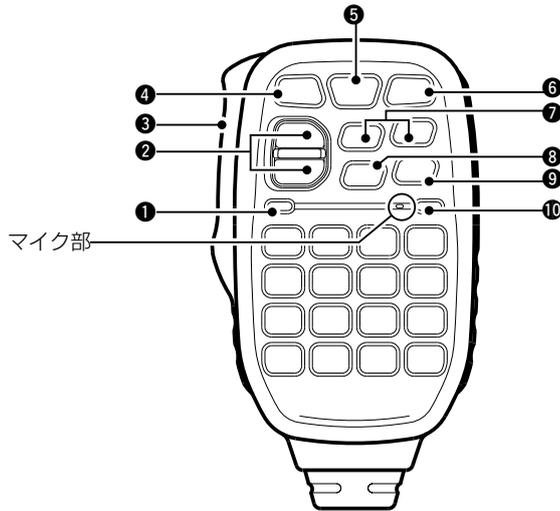
DC13.8Vの電源を接続するコネクタです。(※P62)

◇ マイクコネクタ結線図

- (正面から見た図)
-
- ① +8V +8V/最大10mAの出力
 - ② MIC U/D マイクアップ/ダウン信号入力
 - ③ M8V SW HM-207の接続判断信号入力
 - ④ PTT PTTスイッチの信号入力
 - ⑤ GND マイクのアース
 - ⑥ MIC マイクの信号入力
 - ⑦ GND PTTのアース
 - ⑧ DATA IN HM-207の制御信号入力

■ HM-207(リモコンマイク)について

HM-207は、手元で周波数やメモリーチャンネルの設定ができ、音量やスケルチの調整なども簡単に操作できるマイクロホンです。



① LED 1

マイクロホンの [PTT] で送信すると、赤色に点灯します。

② アップ ダウンキー [▲]/[▼]

キーを押すと、周波数やメモリーチャンネルが切り替わります。
キーを押しつづけると、連続で切り替わります。

③ PTTスイッチ [PTT]

押しているあいだは送信状態、はなすと受信状態に戻ります。

④ VFO メモリーキー [VFO/MR

キーを押すごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

キーを長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押すごとに、ロック機能が ON/OFF します。

⑤ ホーム コールキー [HOME CALL]

キーを押すと、登録したホーム CH を表示します。

キーを長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押すごとに、コールチャンネルモードが ON/OFF します。

⑥ メイン デュアルキー [MAIN DUAL]

キーを押すと、メインバンドを設定します。

⑦ [F-1]キー

[F-1]キーに設定している機能呼び出します。

(初期設定値 受信待機中：BND/BNK、送信中：T-CALL)

[F-2]キー

[F-2]キーに設定している機能呼び出します。

(初期設定値 受信待機中：MONI、送信中：---)

※ [F-1]/[F-2]キーは、MENUモードでほかの機能に設定できません。(P9)

各機能の詳細については、7ページをご覧ください。

⑧ クリアキー [CLR]

MENUモードが表示されているときは、キーを押すと、運用モードに戻ります。

⑨ エンターキー [ENT]

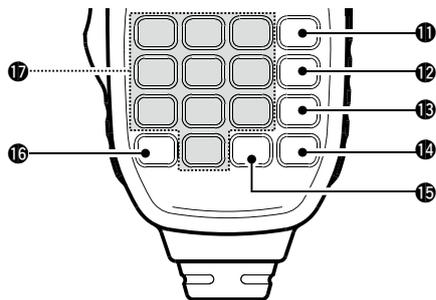
VFOモードの周波数やメモリーモードのチャンネル入力後、確定します。

⑩ LED 2

電源ON時、緑色に点灯します。

1 各部の名称と機能

■ HM-207(リモコンマイク)について(つづき)



- ⑪ [VOL▲ A]キー
押すと、受信時の音量が上がります。
DTMF入力時に押すと「A」が入力されます。
- ⑫ [VOL▼ B]キー
押すと、受信時の音量が下がります。
DTMF入力時に押すと「B」が入力されます。
- ⑬ [SQL▲ C]キー
押すと、スケルチレベルが上がります。
DTMF入力時に押すと「C」が入力されます。
- ⑭ [SQL▼ D]キー
押すと、スケルチレベル下がります。
DTMF入力時に押すと「D」が入力されます。
- ⑮ [# CE]キー
周波数入力画面で押すと、入力している周波数が消去されます。
DTMF入力時に押すと「#」が入力されます。

- ⑯ [*.]キー
周波数入力画面で押すと、デシマルポイントが入力されます。
DTMF入力時に押すと「*」が入力されます。
- ⑰ [0]～[9]キー
周波数入力画面、またはDTMF入力時に押すと、「0」～「9」が入力されます。

◇ 周波数とメモリーチャンネル(M-CH)設定のしかた

〔周波数設定の入力例〕

[VFO/MR 

◎435.680MHzの設定

[4] [3] [5] [6] [8] [0] と押す

◎439.680MHz→439.540MHzの設定

[.] [5] [4] [0] と押す

◎433.000MHzの設定

[4] [3] [3] [ENT]と押す

〔M-CH選択の入力例〕

[VFO/MR 

◎5CH [5] [ENT]と押す

〔CALL-CH選択の入力例〕

[HOME CALL]を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押して、コールCHモードにします。

◎C1 [▲]を押してC1を選ぶ

◎C0 C1選択時に、[▼]を押してC0を選ぶ

【ご参考】リモコンマイク(HM-207)の[F-1]/[F-2]キーに設定できる機能一覧です。(※P13)

受信/待機中

機能 (表示名)	動作内容
---	割り当てなし
MONI ※ [F-2]キー初期設定	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする
MR000	M-CH"000"を選択する
MR001	M-CH"001"を選択する
BND.BNK ※ [F-1]キー初期設定	◎ VFOモード：運用バンドを切り替える ◎ メモリーモード ：バンクOFF、(A～J)を選択する ※ 登録しているバンクだけが表示されます。
SCAN	押すごとに、スキャンを開始したり停止したりする
T-SKIP	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップする)ようにメモリーに登録する
MODE	受信モード(電波型式)を切り替える
LOW	送信出力を切り替える
DUP	デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える
PRIO	プライオリティースキャンのON/OFFを切り替える
TONE	各種トーン機能を切り替える(※P52)

機能 (表示名)	動作内容
MW	VFO モードで長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)押すと、メインバンドで表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込む ※ 自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。
MUTE	ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
DTMFTX	DTMFコードダイレクト入力画面を表示する
T-CALL	T-CALL*を送出する

送信中

機能 (表示名)	動作内容
---	割り当てなし
※ [F-2]キー初期設定	
LOW	送信出力を切り替える
T-CALL ※ [F-1]キー初期設定	T-CALL*を送出する

* T-CALL: 1750Hzトーン信号

2 MENUモードについて

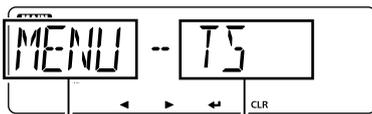
MENUモードでは、初期設定されている運用条件を運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更できます。

MENUモードは、MAINバンドに対して動作します。

■ MENUモードの画面

左側に、MENU項目が表示されます。

右側に、MENU項目の選択肢や設定値が表示されます。



MENU項目

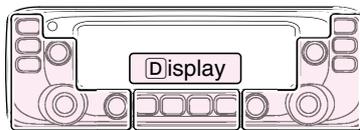
選択肢/設定値

■ MENUモードの階層

各設定項目内に、さらに設定項目が配置されています。これを「階層」といいます。階層を移動するときは、[CLR] (D)、[J] (D)、または[◀] (D)/[▶] (D)を押します。(※P10)

MENU	OFF/TONE/TSQL (101)/TSQL/DTCS (101)/
TONE	DTCS/TSQL-R/DTCS-R/DTCS.R/DTC.OFF/TON.DTC/DTC.TSQ/TON.TSQ
OFFSET	0.000~59.995
R TONE	67.0~254.1
C TONE	67.0~254.1
CODE	023~754
DTCS-P	BOTH N/TN-RR/TR-RN/BOTH R
TS	5.0~50.0/AUTO
LIGHT	1~4
PRIO	OFF/ON/BELL
PAUSE	2~20SEC/HOLD
RESUME	0SEC/1~5SEC/HOLD
MODE	FM/FM-N AM/AM-N
HOMECH	SET.FRQ SET CH/CLEAR
EXMENU	右にEXMENUの階層を記載しています。

EXMENU	
MOD.TS	
MODE	FM/FM-N/AM/AM-N
TS	5.0~50.0/AUTO
DUP.T	
TONE	OFF/TONE/TSQL (101)/TSQL/DTCS (101)/DTCS/TSQL-R/DTCS-R/DTC.OFF/TON.DTC/DTC.TSQ/TON.TSQ
OFFSET	0.000~59.995
R TONE	67.0~254.1
C TONE	67.0~254.1
TBURST	OFF/ON
CODE	023~754
DTCS-P	BOTH N/TN-RR/TR-RN/BOTH R
SCAN	
PRIO	OFF/ON/BELL
PAUSE	2~20SEC/HOLD
RESUME	0SEC/1~5SEC/HOLD
TEMP	5MIN/10MIN/15MIN
P-SKIP	OFF/ON
B-LINK	BANK-A~J
P-EDGE	PROG00~24
P-LINK	PLINK0~9
	OFF/ON
	NAME/FREQ L/FREQ H/TS/MODE/WRITE
	LINK/NAME/ADD/CLEAR



Side

Center

Side

説明文中のD、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

D: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

EXMENU(つぎ)

FUNC

SQLTYP	OFF/S SQL/ATT	
SQL-DL	SHORT/LONG	
FAN	SLOW/MID/FAST/AUTO	
DIAL S	OFF/ON	
AUTORP	OFF/ON	
RMTMIC	RX/TX	F-1/F-2
UDMIC	RX/TX	UP/DN
PTT	PUSH/HOLD	
PTT LK	OFF/ON	
LK OUT	OFF/ON	
TOT	OFF/1~30MIN	
ACTIVE	SINGLE/ALL/HAM	
MIC G	1~4	
AP OFF	OFF/30~120MIN	
CI-V		
CIVADR	01~DF	
CIVBAU	4800~19200/AUTO	
CIVTRN	OFF/ON	
IF-EXC	OFF/ON	

DISP

LIGHT	1~4
AT-DIM	OFF/AT-OFF/AT-1~3
DIM TM	5SEC/10SEC
CONT	1~10
OPN.MSG	OFF/ON
NAME	OFF/ON
AIR	CH ID/FREQ

SOUNDS

BEEPLV	0~9
KEY B	OFF/ON
HOME B	OFF/ON
EDGE B	OFF/ON
STOP B	OFF/ON
SUBMUT	OFF/MUTE/BEEP/MUT.BP

HOMECH

SET.FRQ SET CH/CLEAR

BT SET

BT	OFF/ON	
AT CON	OFF/ON	
CONNEC /DISCON		
PAIR		
HS SET		
AF OUT	HS/HS+SP	
HSFUNC	NORMAL/MIC/P-AMAN /P-ACON	
VOX	VOX	OFF/ON
VOX LV	OFF/1~10	
VOX.DLY	0.5~3.0	
VOX.TOT	OFF/1~15MIN	
COMHS	PgSAVE	OFF/ON
PTT	PUSH/HOLD	
PTT B	OFF/ON	
CUST B	OFF/ON	
CUST K	PLAY/FWD/RWD	
INITBT	YES/NO	

OTHERS

INFO	VOLT/VER	
CLONE	CLONE	NO/YES
MASTER	NO/YES	
PART	NO/YES	
ALL	NO/YES	

2 MENUモードについて

■ 設定項目の選択方法

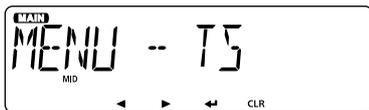
このページと併せて、各設定項目について(※P11～P15)をご覧ください。

【ご参考】

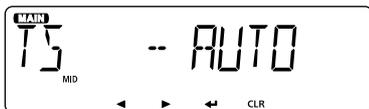
各設定項目からその下の設定項目移動することを、「1つ下の階層に進む」、その逆を「1つ上の階層に戻る」と記載しています。

【例】チューニングステップを設定する

- ① チューニングステップを設定するバンドの **[MAIN BAND]** (S) を短く押す。
 - MAINバンドを設定します。
- ② **[MENU]** (C) を短く押す。
 - MENU項目が表示されます。
- ③ **[DIAL]** (S) で、「TS」(チューニングステップ)項目を選択する。



- ④ **[↵]** (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。

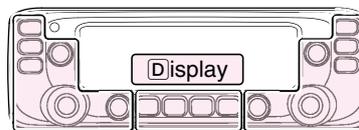


- **[▶]** (D) を押しても、1つ下の階層に進みます。

- ⑤ **[DIAL]** (S) で、設定したい周波数ステップを選択する。
 - 選択できるチューニングステップ：
5kHz/6.25kHz/8.33kHz/10kHz/12.5kHz/15kHz/20kHz/25kHz/30kHz/50kHz/オート
 - ※ 「8.33」が選択できるのは、AIRバンドだけです。
AIRバンドの設定範囲は、8.33、25 (kHz)、AUTOです。
- ⑥ **[↵]** (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - **[CLR]** (D)、または **[◀]** (D) を押しても、1つ上の階層に戻ります。
- ⑦ **[MAIN BAND]** (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。
 - **[V/MHz SCAN]** (S)、または **[MR CALL]** (S) を短く押しても、MENUモードが解除されます。

【ご参考】初期値に戻すには

手順④のあと、**[MR CALL]** (S) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押すと、初期値に戻ります。



S: Side

C: Center

S: Side

説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

■ 各設定項目について

◇ MENU項目

MENUモードの項目について詳しくは、P16～P19をご覧ください。

トーン 各種トーン機能を設定します	MENU - TONE
オフセット周波数 デュプレックス運用時の送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)を設定します	MENU - OFFSET
レピータトーン周波数 レピータアクセスに必要なトーン信号の周波数(トーンエンコーダー)を設定します	MENU - R TONE
TSQL周波数 FMモードで、特定の相手局とだけ通信したいときに使うアナログ方式のトーンスケルチ機能で使用する、トーンエンコーダー/デコーダーの周波数を設定します	MENU - C TONE
DTCSコード FMモードで、特定の相手局とだけ通信したいときに使うデジタル方式のスケルチ機能で使用する、DTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します	MENU - CODE
DTCS極性 DTCSエンコーダー/デコーダーで使うDTCSコードの極性を設定します	MENU - DTCS-P
チューニングステップ [DIAL]を回して目的とする電波にチューニング(同調)するときの周波数に変化する幅(kHz)を設定します	MENU - TS
バックライト バックライトの明るさを調整します	MENU - LIGHT
プライオリティースキャン プライオリティースキャンをスタートします	MENU - PRIO
スキャン一時停止時間 信号を受信したとき、スキャンを一時停止させる時間を設定します	MENU - PRUSE

スキャン再開時間 スキャン一時停止後、受信していた信号が消えてから再開する条件(時間)を設定します	MENU - RESUME
モード 入力した周波数の受信モード(電波型式)を設定します	MENU - MODE
ホームCH VFOモード、またはメモリーモードのホームCHを設定します	MENU - HOMECH
EXMENU [↓](⑩)、または[▶](⑩)を押すと、EXMENU項目を表示します	MENU - EXMENU

◇ EXMENU項目

EXMENU項目についてのさらに詳しい説明は、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

モード/チューニングステップ選択 受信モードやチューニングステップを設定します	EXMEN- MODETS
モード★ 受信モード(電波型式)を設定します	MODETS- MODE
チューニングステップ★ [DIAL]を回して目的とする電波にチューニング(同調)するときの周波数に変化する幅(kHz)を設定します	MODETS- TS

★MENUモードでも設定できます。

2 MENUモードについて

■ 各設定項目について(つづき)

DUP/トーン設定	EXMEN- DUPT
レピータ運用、デュプレックス運用や各種トーン機能を運用するときに設定します	
トーン★ 各種トーン機能を設定します	DUPT -- TONE
オフセット周波数★ デュプレックス運用時の送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)を設定します	DUPT -- OFFSET
レピータトーン周波数★ レピータアクセスに必要なトーン信号の周波数(トーンエンコーダー)を設定します	DUPT -- R TONE
TSQL周波数★ FMモードで、特定の相手局とだけ通信したいときに使うアナログ方式のトーンスケルチ機能で使用する、トーンエンコーダー/デコーダーの周波数を設定します	DUPT -- E TONE
トーンバースト トーンスケルチ機能を使った交信で、[PTT]をはなしたとき、相手局のスピーカーから一瞬出る「ザッ」というノイズ(雑音)を抑えたいとき、設定します	DUPT -- TBURST
DTCSコード★ FMモードで、特定の相手局とだけ通信したいときに使うデジタル方式のスケルチ機能で使用する、DTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します	DUPT -- CODE
DTCS極性★ DTCSエンコーダー/デコーダーで使うDTCSコードの極性を設定します	DUPT -- DTCS-P

★MENUモードでも設定できます。

スキャン設定	EXMEN- SCAN
スキャンをするときに設定します	
プライオリティースキャン★ プライオリティースキャンをスタートします	SCAN -- PRIORITY
スキャン一時停止時間★ 信号を受信したとき、スキャンを一時停止させる時間を設定します	SCAN -- PAUSE
スキャン再開時間★ スキャン一時停止後、受信していた信号が消えてから再開する条件(時間)を設定します	SCAN -- RESUME
一時スキップ時間 スキャン中に停止した周波数を、一時的にスキップさせる時間を設定します	SCAN -- TEMP
プログラムスキップスキャン VFOスキャン時、特定の周波数を飛び越す(スキップする)機能を設定します	SCAN -- P-SKIP
バンクリンク 複数のバンクを連続してスキャンする(バンクリンクスキャン)機能を設定します	SCAN -- B-LINK
プログラムスキャンエッジ プログラムスキャン範囲を設定します	SCAN -- P-EDGE
プログラムスキャンエッジ 25組のプログラムスキャンを表示します	PEDGE-- PROGRAM
ネーム 各プログラムスキャンのネームを編集します	POD -- NAME
下限周波数 各プログラムスキャンの下限周波数を設定します	POD -- FREQ L
上限周波数 各プログラムスキャンの上限周波数を設定します	POD -- FREQ H
チューニングステップ 各プログラムスキャンのチューニングステップを設定します	POD -- TS

MENUモードについて 2

スキャン設定(つづき)	EXMEN- SCAN
モード 各プログラムスキャンのモード(電波型式)を設定します	POB -- MODE
プログラムリンク 複数のプログラムスキャン範囲を連続してスキャンする(プログラムリンクスキャン)機能を設定します	SCAN -- P-LINK
スキャンリンクチャンネル 10件のスキャンリンクメモリーを表示します	PLINK-- PLINK0
リンク プログラムリンクスキャン運用時にリンクするプログラムスキャンを確認できます	LINK0-- LINK
ネーム 各スキャンリンクメモリーのネームを編集します	LINK0-- NAME
追加 プログラムリンクスキャン運用時にリンクするプログラムスキャンを追加します	LINK0-- ADD
クリア プログラムリンクスキャン運用時にリンクしているプログラムスキャンを解除します	LINK0-- CLEAR
機能設定	EXMEN- FUNC
各種機能を設定します	
スケルチ/ATT選択 Sメータースケルチ、アッテネーターを設定します	FUNC -- SCLTYP
スケルチ遅延時間 受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定します	FUNC -- SCL -- DL
空冷ファン設定 冷却ファンの動作を設定します	FUNC -- FAN
ダイヤル加速 [DIAL]を速く回したとき、周波数の可変速度を一気に速くする機能を設定します	FUNC -- DIAL S

オートレピータ レピータ運用のための、トーンエンコーダーとデュプレックスを自動的に設定します	FUNC -- AUTORP
リモコンマイクキー 付属のHM-207の[F-1]/[F-2]に割り当てる機能を設定します	FUNC -- RMTMIC
受信/待機中 受信や待ち受け時に操作できる機能を設定します	RMMIC -- RX
送信中 送信時に操作できる機能を設定します	RMMIC -- TX
UP/DNマイクキー 別売品のHM-154の[UP]/[DN]に割り当てる機能を設定します	FUNC -- UDMIC
受信/待機中 受信や待ち受け時に操作できる機能を設定します	UDMIC -- RX
送信中 送信時に操作できる機能を設定します	UDMIC -- TX
ワンタッチPTT HM-207の[PTT]を押すたびに送信/受信を切り替える、ワンタッチPTT機能を設定します	FUNC -- PTT
PTTロック [PTT]による送信を禁止します	FUNC -- PTT LK
ビジーロックアウト 信号を受信しているときだけ、[PTT]による送信を禁止します	FUNC -- LK OUT
タイムアウトタイマー 連続送信時間を制限する機能を設定します	FUNC -- TOT
運用バンド [DIAL]で選択できる周波数範囲を、運用バンド内に固定します	FUNC -- ACTIVE
マイクゲイン マイクのゲイン(感度)を設定します	FUNC -- MIC G
オートパワーオフ キーやダイヤル操作が一定時間なかったときに、自動で電源をOFFする機能を設定します	FUNC -- AP OFF

2 MENUモードについて

■ 各設定項目について(つづき)

CI-V	FUNC - CI-V
CI-Vアドレス CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを設定します	CI-V - CIVADR
CI-Vポーレート CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのデータ通信速度を設定します	CI-V - CIVBAU
CI-Vトランシーブ CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするとき、ほかの無線機と設定の変更を連動させるトランシーブ機能を設定します	CI-V - CIVTRN
IF周波数入れ替え 中間周波数を左右で入れ替えるときに設定します	FUNC - IF-EXC
ディスプレイ設定	EXMEN- DISP
表示関係を変更するときに設定します	
バックライト★ バックライトの明るさを調整します	DISP - LIGHT
オートディマー 一定時間操作しないときの、バックライトの点灯状態を設定します	DISP - AT-DIM
オートディマータイマー オートディマーが動作するまでの時間を設定します	DISP - DIM TM
LCDコントラスト ディスプレイのコントラストを調整します	DISP - CONT
オープニングメッセージ オープニングメッセージ(電源を入れた直後に表示される、「ICOM」と電源電圧値)を表示するかしないか設定します	DISP - OPNMSSG
メモリーネーム表示 メモリーモードでメモリーネームを表示するかしないか設定します	DISP - NAME
AIRバンド表示 AIRバンド周波数の入力、または表示形式を設定します	DISP - AIR

★MENUモードでも設定できます。

サウンド設定	EXMEN- SOUNDS
操作音などを変更するときに設定します	
ビーブレベル キー操作音とビーブ音のレベルを設定します	SOUND- BEEPLV
操作音 操作音や各種機能動作時のビーブ音を鳴らす機能を設定します ※左右のバンドで、音の高さが異なります	SOUND- KEY B
ホームCHビーブ ホームCHを表示したときに、ビーブ音を鳴らす機能を設定します	SOUND- HOME B
バンドエッジビーブ バンドが切り替わったときに、ビーブ音を鳴らす機能を設定します	SOUND- EDGE B
スキャンストップビーブ スキャン動作中に信号を受信してスキャンが一時停止したときに、ビーブ音を鳴らす機能を設定します	SOUND- STOP B
サブバンドミュート サブバンドの受信音をミュートしたり、受信終了時にビーブを鳴らす機能を設定します	SOUND- SUBMUT
ホームCH設定★	EXMEN- HOMECH
VFOモード、またはメモリーモードのホームCHを設定します	
設定	HOME - SETFRQ HOME - SET CH
選択している周波数、またはM-CHをホームCHに設定します	
クリア 現在設定しているホームCHを解除します ※ ホームCHを登録していないときは、表示されません	HOME - CLEAR
Bluetooth設定	EXMEN- BT SET
Bluetooth®機器を使用するときに設定します	
Bluetooth® Bluetooth®機能をON/OFFします。	BTSET- BT

MENUモードについて 2

Bluetooth設定(つづき)	EXMEN- BT SET
自動接続 ペアリング済みのBluetooth®機器と自動で接続する機能を設定します	BTSET- AT CON
接続 ペアリング済みのBluetooth®機器を表示して、選択したBluetooth®機器と接続します	BTSET- CONNEC
切断 接続済みのBluetooth®機器をペアリングさせたまま切断します	BTSET- DISCON
ペアリング Bluetooth®機器とペアリングします	BTSET- PAIR
ヘッドセット設定	BTSET- HS SET
AF出力切替 ヘッドセット使用時、無線機本体からのAF出力を設定します	HSSET- AF OUT
ヘッドセット機能設定 Bluetoothヘッドセットおよび本体、またはコントローラーにマイクロホンを接続したときの送信操作と送信する音声について設定します。	HSSET- HSFUNC
VOX	HSSET- VOX
VOX機能 ヘッドセット使用時、[PTT]を押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します	VOX - VOX
VOXゲイン 入力音声により送信に切り替わる感度を設定します	VOX - VOX LV
VOXディレイ VOX機能により送信状態に切り替わったあと、音声入力になっても送信状態を保持する時間を設定します	VOX - VOX DEL Y
VOXタイムアウトタイマー VOX機能使用時、連続して送信できる時間を設定します	VOX - VOXTOT
アイコムヘッドセット 別売品のVS-3を使用するときの設定です	HSSET- ICOMHS
パワーセーブ パワーセーブモードで運用するかどうかを設定します	ICOMH- P oSAVE

ワンタッチPTT [PTT]を押すたびに送信/受信を切り替える、ワンタッチPTT機能を設定します	ICOMH- PTT
PTTビーブ [PTT]を押したときにビーブ音を鳴らす機能を設定します	ICOMH- PTT B
カスタマイズキービーブ カスタマイズキーを使用したときにビーブ音を鳴らす機能を設定します	ICOMH- CUST B
カスタマイズキー カスタマイズキーに機能を割り当てます	ICOMH- CUST K
初期化 Bluetooth®ユニット(UT-133)の接続情報や機器名称などを初期化します	BTSET- INITBT

その他

EXMEN- OTHERS

本体情報表示、クローン、リセット操作についてまとめています

INFORMATION	OTHER- INFO
電圧表示 本製品の電圧を確認できます	INFO - VOLT
バージョン情報 本製品のファームウェアのバージョンを確認できます ※別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けている場合は、Bluetooth®ユニットのバージョンも確認できます。	INFO - VER
CLONE クローン書き込み、読み込みをするための画面を表示します	OTHER- CLONE
クローンモード データを受け取る側(子機)に設定します	CLONE- CLONE
クローンマスターモード データを送る側(親機)に設定します	CLONE- MASTER
リセット	OTHER- RESET
パージャルリセット パージャルリセットします	RESET- PART
オールリセット オールリセットします	RESET- ALL

2 MENUモードについて

■ MENU項目について

トーン選択 MENU - TONE (初期設定：OFF)

トーン機能を設定します。

- OFF : トーン機能を使用しない。
- TONE : 「レピータトーン周波数」(MENU-R TONE)項目で設定したトーン周波数を搬送波に重畳して送信する。
- TSQL(「**(●●)**」点灯) : トーンスケルチ機能のポケットビープをONにする。
- TSQL : トーンスケルチ機能をONにする。
送信時には、「TSQL周波数」(MENU-CTONE)項目で設定したトーン周波数を搬送波に重畳する。
受信時には、信号に含まれるトーン周波数が一致したときだけ、スケルチが開いて受信できる。(スピーカから音が出る)
- DTCS(「**(●●)**」点灯) : DTCSコードスケルチ機能のポケットビープをONにする。
- DTCS : DTCSコードスケルチ機能をONにする。
送信時には、設定したDTCSコードを付加する。
受信時には、信号に含まれるDTCSコードと極性が一致したときだけ、スケルチが開いて受信できる。(スピーカから音が出る)
- TSQL-R : 逆トーンスケルチをONにする。
受信信号に含まれるトーン周波数が一致したときだけ、スケルチが開かない。(スピーカから音が出ない)
※ 特定の局からの音声をミュートするときに使います。

- DTCS-R : 逆DTCSスケルチをONにする。
受信信号に含まれるDTCSコードと極性が一致したときだけ、スケルチが開かない。(スピーカから音が出ない)
※ 特定の局からの音声をミュートするときに使います。
- DTC.OFF : 送信時には設定したDTCSコードを付加し、受信時にはトーンスケルチ機能を使用しない。
- TON.DTC : 送信時には、「レピータトーン周波数」(MENU-R TONE)項目で設定したトーン周波数を搬送波に重畳する。
受信時には、信号に含まれるDTCSコードと極性が一致したときだけ、スケルチが開いて受信できる。(スピーカから音が出る)
- DTC.TSQ : 送信時には、設定したDTCSコードを付加する。
受信時には、信号に含まれるトーン周波数が「TSQL周波数」(MENU-C TONE)項目で設定した周波数と一致したときだけ、スケルチが開いて受信できる。(スピーカから音が出る)
- TON.TSQ : 送信時には、「レピータトーン周波数」(MENU-R TONE)項目で設定したトーン周波数を搬送波に重畳する。
受信時には、信号に含まれるトーン周波数が「TSQL周波数」(MENU-C TONE)項目で設定した周波数と一致したときだけ、スケルチが開いて受信できる。(スピーカから音が出る)

オフセット周波数 MENU - OFFSET (初期設定 : 5.000)

デュプレックス運用時に使用するシフト幅を設定します。

- 設定範囲: 0.000~59.995 (MHz)
- ※ シフト方向(DUP+/DUP-)は、VFOモードで[MONI DUP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと表示される画面で設定します。(※P46)

レピータトーン周波数 MENU - R TONE (初期設定 : 88.5)

レピータ運用などで使用するレピータトーン(トーンエンコーダー)の周波数(Hz)を設定します。

- 設定範囲: 67.0~254.1 (Hz)(下表参照)

TSQL周波数 MENU - [TONE (初期設定 : 88.5)

トーンスケルチ運用で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数(Hz)を設定します。

- 設定範囲: 67.0~254.1 (Hz)(下表参照)

トーン周波数(Hz)

67.0	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
69.3	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	
82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3	

DTCSコード MENU - CODE (初期設定 : 023)

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します。

- 設定範囲: 023~754(104コード)(下表参照)

DTCSコード

023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	

DTCS極性 MENU - DTCS-P (初期設定 : BOTH N)

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出、または検出の位相を設定します。

- BOTH N : 送信/受信とも反転しない
- TN-RR : 送信側は反転しないで、受信側を反転する
- TR-RN : 送信側を反転し、受信側は反転しない
- BOTH R : 送信/受信とも反転する

2 MENUモードについて

■ MENU項目について(つづき)

チューニングステップ MENU - TS (初期設定：AUTO)

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]を回してチューニング(同調)するときの周波数が変化する幅(kHz)のことです。

周波数を自動的に切り替えるVFOスキャンについても同じステップ幅で動作します。

- 144MHz/430MHz
:5.0、6.25、10.0、12.5、15.0、20.0、25.0、30.0、50.0(kHz)、AUTO
 - AIRバンド:8.33、25(kHz)、AUTO
- ※ AIRバンドの初期設定は25kHzです。

バックライト MENU - LIGHT (初期設定：4)

バックライトの明るさを設定します。

- 設定範囲 :1(暗い)～4(明るい)

プライオリティースキャン MENU - PRIO (初期設定：OFF)

プライオリティースキャンをスタート/ストップします。

- OFF :プライオリティースキャンをストップします。
- ON :プライオリティースキャンをスタートします。
プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
- BELL :プライオリティースキャンをスタートします。
プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で「(●●)」が点滅します。

停止時間 MENU - PAUSE (初期設定：10SEC*)

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。

ここでは、一時停止する時間を設定します。

設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再開します。

- 2SEC～20SEC(2SECステップ)
- HOLD :信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると、「再開時間」の条件で再開する

再開時間 MENU - RESUME (初期設定：2SEC*)

スキャンが一時停止後、信号がなくなってからの再開の条件(時間)を設定する項目です。

- 0SEC :信号がなくなると同時に再開する
- 1SEC～5SEC
:信号がなくなると1秒～5秒の各設定時間後に、再開する
- HOLD :信号がなくなっても一時停止状態を保持する
※ 再開するときは、[DIAL]を操作します。
※ 「停止時間」が2SEC～20SECの場合、停止時間を優先して再開します。

*SEC: 秒

モード選択 MENU - MODE (初期設定：FM)

本製品には、4つの受信モード(FM/FM-N/AM/AM-N)があります。表示周波数によって、選択できる受信モードが異なります。

- 144MHz/430MHz :FM、FM-Nから選択する
- AIRバンド :AM、AM-Nから選択する

※ AIRバンドの初期設定はAMです。

※ FM-Nモードは、アマチュアバンドの送信デビエーション(周波数偏移)をナロー対応の約2.5kHzに設定します。

ホームCH設定 HOME - SETFRQ、HOME - SET CH

ホームCHに周波数を登録しておくこと、HM-207の[HOME CALL]キーを短く押すだけで、その周波数を表示できます。

ホームCHは、VFOモード、メモリーモードごとに登録できます。

- SET.FRQ :VFOモードで選択している周波数をホームCHに設定する
- SET CH :メモリーモードで選択しているチャンネル周波数をホームCHに設定する

ホームCH削除 HOME - CLEAR

[↵](ⓓ)を短く押すと、登録したホームCHを削除します。

EXMENU MENU - EXMENU

EXMENUに移行します。

EXMENUで設定できる項目については、P11～P15のリストをご覧ください。

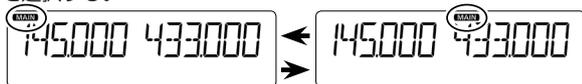
EXMENU項目についてのさらに詳しい説明は、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

3

基本操作のしかた

■ MAINバンドの選びかた

選択する側の[MAIN BAND](S)を押して、右側、または左側のバンドを選択する。



- MAINバンド側に「MAIN」が表示されます。
- MAINバンド側だけ、送信ができます。

■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]の切り替えかた

- MAINバンドに関係なく、左側と右側の両バンドで操作ができます。

◇ VFOモードにするには

VFOモードとは

[DIAL](S)で、周波数を設定するモードです。

[V/MHz SCAN](S)を短く押す。

- VFOモードになります。
- [DIAL](S)で、周波数を設定します。

◇ メモリーモード/CALL CHモードにするには

メモリーモードとは

あらかじめ記憶させたメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出して運用するモードです。

[MR CALL](S)を短く押す。

- メモリーモードになります。
- [DIAL](S)で、M-CHを選択します。

コールチャンネルモードとは

コールチャンネル(CALL-CH)とは、各バンドで決められた呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。

[MR CALL](S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。

- CALL-CHモード選択時は、「CO」、「C1」表示が点灯します。
- [DIAL](S)を回してCALL-CHを選択します。

■ 運用バンド(周波数帯)について

◇ 運用バンドの選択

運用バンドは3バンドにわかれています。

バンド	設定できる周波数範囲
AIR	118.000MHz~136.99166MHz
144	137.000MHz~174.000MHz
430	375.000MHz~550.000MHz

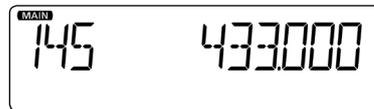
※ 送信できる周波数は、アマチュアバンドに限られます。

① [V/MHz SCAN](S)を押す。

- VFOモードになります。

② [MAIN BAND](S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。

- バンド切り替え表示に切り替わります。



③ [DIAL](S)で、運用したいバンドを選択する。

④ [MAIN BAND](S)を押す。

- 周波数表示に戻ります。

■ 周波数を設定する

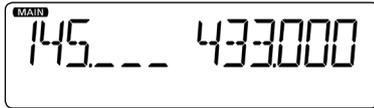
VFOモードでの操作を説明します。

- メモリーモード、コールチャンネルモードを選択しているときは、[V/MHz SCAN] (S) を短く押ししてください。

◇ 1MHzステップにするには

周波数を大きく変えるときに便利な機能です。

- ① [V/MHz SCAN] (S) を短く押す。
 - 1MHzステップ表示に切り替わります。



- ② [DIAL] (S) を回す。
 - 1MHzステップで周波数が変化します。
- ③ [V/MHz SCAN] (S) を短く押す。
 - 1MHzステップ表示が解除されます。

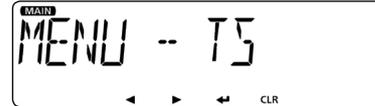
◇ チューニングステップを変えるには

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL] (S) で周波数を設定するときの、周波数の変化幅です。

チューニングステップは、VFOスキャン(*P37)にも適応されます。

- ① [MAIN BAND] (S) を短く押して、チューニングステップを設定したいバンドをMAINバンドに設定する。
- ② [MENU] (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。

- ③ [DIAL] (S) で、「TS」(チューニングステップ)項目を選択する。



- ④ [↵] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ⑤ [DIAL] (S) で、設定したいチューニングステップを選択する。

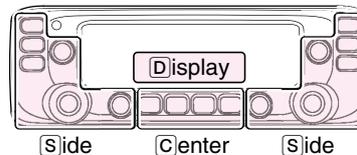
チューニングステップ(kHz)

5	6.25	8.33*	10	12.5	15
20	25	30	50	Auto	

※ 「8.33」が選択できるのは、AIRバンドだけです。

AIRバンドでは、「8.33」、「25」、「Auto」だけ選択できます。

- ⑥ [↵] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
- ⑦ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。
- ⑧ [DIAL] (S) を回す。
 - 設定したチューニングステップで周波数が変化します。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

3 基本操作のしかた

■ 音量とスケルチを調整する

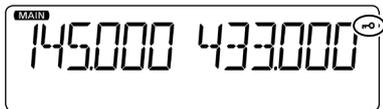
- MAINバンドに関係なく、左側と右側の両バンドで操作ができます。
- ① [VOL] (S) で、音量を調整する。
 - ※ BEEP(操作音)の音量を変更したいときは、MENUモードの「BEEPLV」(ビープレベル)項目で変更できます。(P14)
(MENU-EXMENU > EXMEN-SOUNDS > SOUND-BEEPLV)
 - ② [SQL] (S) で、信号を受信していない状態で雑音が消えて「BUSY」表示が消灯する位置にセットする。
 - [SQL] (S) を右方向に回しすぎると、スケルチレベルが深くなり、弱い信号が受信できなくなります。

■ ロック機能の使いかた

不用意に [DIAL] (S) やキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

[MENU] (C) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。

- ロック表示が点灯します。



- ロック機能を解除するときも、同じ操作をします。
- ロック機能を設定しても、[P]、[MONI DUP] (C) (モニターのみ)、[PTT]、[MAIN BAND] (S) (MAINバンド切り替えのみ)、[MENU] (C) (ロック解除のみ)、[SQL] (S)、[VOL] (S) はロックされません。

■ 送信出力を設定して交信する

◇ アマチュアバンドの運用

送信する前に、その周波数を他局が使用していないか確認し、混信や妨害を与えないようご注意ください。

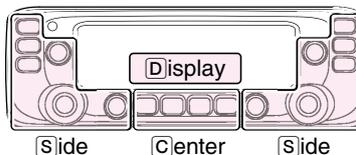
また、バンドの使用区別(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(P81)

※ 電源電圧は、定格範囲で使用してください。(P62)

- 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。
 - MAINバンド側だけ、送信ができます。
- ① [LOW DTMF] (C) を短く押すごとに、送信出力が切り替わります。
 - 送信出力表示が「LOW」、「MID」、「(消灯)」と切り替わります。HIGH出力のとき、送信出力表示が消灯します。
 - ※ 交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。
 - ② [PTT] を押しながら、マイクに向かって話します。
 - 設定した送信出力がS/RFMーターに表示されます。



- ③ [PTT] をはなすと、受信状態に戻ります。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

■ 受信モード(電波型式)を設定する

本製品には、4つの受信モード(FM/FM-N/AM/AM-N)があります。
初期状態では「FM」に設定されています。

- 左側と右側の両バンドで個別に設定できます。
 - 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。
- ① 受信モードを設定するバンドの【MAIN BAND】(S)を短く押し、MAINバンドを設定します。
 - ② 【MENU 】(C)を短く押し。
 - MENUモードが表示されます。
 - ③ 【DIAL】(S)で、「MODE」(モード)項目を選択する。



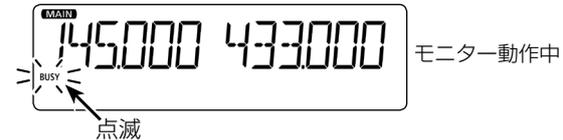
- ④ 【】(D)を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ⑤ 【DIAL】(S)で、設定したい受信モードを選択する。
 - 144/430バンド選択時 FM/FM-N
 - AIRバンド選択時 AM/AM-N

※ FM-Nモードは、送信/受信の周波数偏移をナロー対応の約2.5kHzに設定します。
- ⑥ 【】(D)を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
- ⑦ 【MAIN BAND】(S)を短く押し。
 - MENUモードが解除されます。

■ 受信モニター機能について

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きとりにくい場合に使用します。

- 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。
- 【MONI DUP】(C)を短く押すごとに、MAINバンド側のスケルチが強制的に開閉します。



■ マイクゲインの設定

MENUモードでマイクゲインを設定できます。
ご使用のマイクロホンに合わせて設定してください。

- 設定内容は、MAINバンドに対して動作します。
- ① 【MENU 】(C)を短く押し。
 - ② 【DIAL】(S)で、「MIC G」(マイクゲイン)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-FUNC > FUNC-MIC G)
 - ③ 【】(D)を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
 - ④ 【DIAL】(S)で、ゲインを設定する。
 - マイクゲインを上げる(数値を大きくすると)、比較的小さな声でも送信できますが、まわりの音も拾いやすくなります。
 - ⑤ 【】(D)を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - ⑥ 【MAIN BAND】(S)を短く押し。
 - MENUモードが解除されます。

4 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネルについて

よく使用する周波数などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)に記憶させておき、すばやく呼び出して運用できます。

◇ 本製品が搭載しているM-CH

チャンネルのタイプ	チャンネル数
通常のメモリーチャンネル(M-CH)	1000チャンネル(000~999) 運用バンドの区別はなく、左側/右側の両バンドで共用
コールチャンネル(CALL-CH)	2チャンネル (C0: 144、C1: 430)

◇ M-CHの詳細

チャンネル	おもな用途
チャンネル	<ul style="list-style-type: none">● 通常のM-CHとして使用● 工場出荷時に記憶している内容 000: 145.000MHz、001: 433.000MHz
C0 C1	<ul style="list-style-type: none">● コールチャンネルの呼出周波数を記憶● 工場出荷時に記憶している内容 C0: 145.000MHz C1: 433.000MHz

◇ 1つのM-CHが記憶できる内容

運用周波数	チューニングステップ(TS)
デュプレックスのON/OFF	受信モード(電波型式)
シフト方向(+/-)	トーンスケルチ設定とトーン周波数
オフセット周波数	レピータアクセス用トーン周波数
メモリーネーム	DTCSのコードと極性
スキップチャンネル設定	メモリーバンク

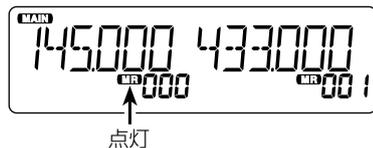
■ チャンネルの呼び出しかた

◇ M-CHの呼び出しかた

メモリーモードで[DIAL] (S)を回して選択できます。

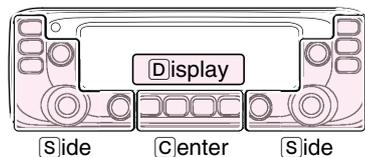
● 左側と右側の両バンドで個別に呼び出しができます。

- ① [MR CALL] (S)を短く押す。
 - メモリーモードになります。
- ② [DIAL] (S)で、M-CHを選択する。
 - ※ ブランクチャンネルは表示されません。



【ご参考】マイクロホン(HM-207)で呼び出すには (P5)

- ① [VFO/MR] (O)を短く押して、メモリーモードにする。
- ② チャンネル番号を入力し、[ENT]を押す。
 - ※ メモリーチャンネルを3桁入力する場合は、[ENT]は不要です。



説明文中のO、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- O: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

◇ コールチャンネル(CALL-CH)の呼び出しかた

コールチャンネルモードで[DIAL] (S)を回して選択できます。

CALL-CHとは、呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。

通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き換え (P26) できるので、使用頻度の高い周波数を記憶させておくとう便利です。

初期設定値

- C0 : 145.000MHz
- C1 : 433.000MHz

※「C0」はVHF帯、AIR帯に限ります。

※「C1」はUHF帯に限ります。

● 左側と右側の両バンドで個別に呼び出しができます。

- ① [MR CALL] (S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
 - CALL-CHモードになります。
- ② [DIAL] (S)で、CALL-CHを選択する。



CALL-CH番号を表示

【ご参考】マイクロホン(HM-207)で呼び出すには (P5)

- ① [HOME CALL]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、CALL-CHモードにする。
- ② [▲]、または[▼]キーを押して、CALL-CHを選択する。

4 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた

VFOモードで周波数を設定したあと、書き込み操作をします。工場出荷時は、チャンネル「2」～「999」がブランクです。チャンネルを指定して書き込む方法と、空いているチャンネルに自動で書き込む方法があります。

なお、運用バンドによるM-CHの区別はなく、左側と右側の両バンドで共有します。

● 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。

◇ チャンネルを指定して書き込む

《例》「434.100MHz」をチャンネル「11」に書き込む

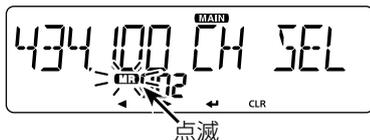
① VFOモードを選択する。

- メモリーモード、またはCALL-CHモードを選択しているときは、[V/MHz SCAN] (S) を短く押してください。

② 周波数を「434.100MHz」にする。

③ [MW] (C) を短く押す。

- MRが点滅します。



④ [DIAL] (S) で「CH SEL」を選択する。

⑤ [↵] (D) を押す。

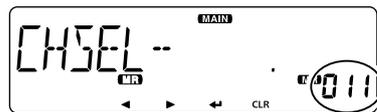
- チャンネル選択画面が表示されます。
- [←] (D) を押すと、前の画面に戻ります。

⑥ [DIAL] (S) で、チャンネル「11」を選択する。

【ご注意】

すでに内容が登録されているM-CHを選択した場合は上書きされます。

- 書き込み先のチャンネルとして、CALL-CHも選択できます。
- [MAIN BAND]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、書き込み先のチャンネルとして、BANKからも選択できます。



チャンネルを選択

⑦ [↵] (D) を押す。

⑧ [DIAL] (S) で、「WRITE」を選択する。

⑨ [↵] (D) を押す。

- 「WRITE?」が表示されます。

⑩ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。

⑪ [↵] (D) を押す。

- ピピッと鳴ってメモリーが書き込まれ、VFOモードに戻ります。

◇ 空いているチャンネルに自動で書き込む

《例》「434.100MHz」をブランクチャンネルに書き込む

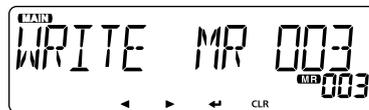
① [V/MHz SCAN] (S) を短く押す。

② 周波数を「434.100MHz」にする。

③ [MW] (C) を長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)押す。

- 空いているチャンネルに自動で書き込まれます。

※空いているチャンネルがない場合は、「MEMORY FULL」を表示します。



書き込んだCHを約2秒表示

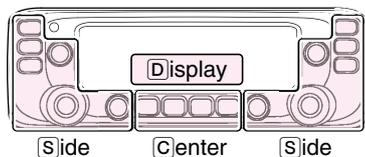
◇メモリー内容をVFOに転送して使う

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に周波数を移して、交信する場合などに便利な機能です。

- ① M-CHを選択する。(P25)
- ② [MW] (C)を短く押して、メモリー編集画面を表示する。
- ③ [DIAL] (S)で、「TO VFO」を選択する。



- ④ [↵] (D)を押す。
 - ピピッと鳴ってM-CHの内容がVFOモードに転送され、VFOモードに戻ります。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- C: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

◇メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする

M-CHの内容をほかのチャンネルへコピーできます。

- ① コピー元のM-CHを選択する。(P25)
- ② [MW] (C)を短く押して、メモリー編集画面を表示する。
- ③ [DIAL] (S)で、「COPY」を選択する。



- ④ [↵] (D)を押す。
- ⑤ [DIAL] (S)で、コピー先のチャンネルを選択する。
 - コピー先のチャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、その内容を表示します。



チャンネルを選択

- ⑥ [↵] (D)を押す。
 - ピピッと鳴ってメモリー内容がコピーされます。
 - コピー先のチャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、「OVERW?」が表示されます。
- [DIAL] (S)で「YES」を選択し、[↵] (D)を押すと、上書きされます。

4 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネル(M-CH)にバンクを割り当てる

本製品に書き込んだM-CH（最大1000CH）を、10個のバンク(A～J)に分けて管理できます。

各バンクには、最大100CHまで割り当てできます。

M-CHの種類や用途ごとにバンクで整理しておくくと便利です。

また、指定したバンク内のM-CHだけをスキャンの対象とする、バンクスキャン(※P32)も使用できます。

● 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。

【ご注意】

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集元のM-CH自体を書き換えると、メモリーバンクの内容も変更されます。

【ご参考】編集後、書き込みをキャンセルするには

- ① 編集後、[◀](D)、または[CLR](D)を短く押す。
 - 「CANCEL？」が表示されます。
- ② [DIAL](S)で、「YES」を選択する。
- ③ [↵](D)を短く押す。

◇ バンクの割り当てかた

- ① バンクを割り当てたいM-CHを選択する。(※P25)
- ② [MW](C)を短く押して、メモリー編集画面を表示する。
- ③ [DIAL](S)で、「EDIT」を選択する。
- ④ [↵](D)を押す。
- ⑤ [DIAL](S)で、「BANK」を選択する。
- ⑥ [↵](D)を押す。
- ⑦ [DIAL](S)で、チャンネルに割り当てるバンクを選択する。



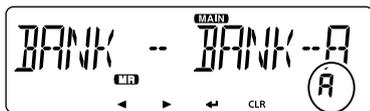
- ⑧ [↵](D)を押す。
- ⑨ [DIAL](S)で、「WRITE」を選択する。
- ⑩ [↵](D)を押す。
 - 「OVERW ?」が表示されます。
- ⑪ [DIAL](S)で、「YES」を選択する。
- ⑫ [↵](D)を押す。
 - ピピッと鳴ってM-CHにバンクが割り当てられます。

◇ メモリーバンクにM-CHを直接書き込む

メモリーバンクを選んでからM-CHを登録することもできます。バンクに書き込むと同時に、番号の小さいブランクチャンネルを自動で割り当て、メモリーに書き込みます。

《例》バンク「A」に「434.100MHz」を書き込む

- ① [V/MHz SCAN] (S) を短く押す。
 - VFOモードになります。
- ② 周波数を「434.100MHz」にする。(P26)
- ③ [MW] (C) を短く押して、メモリー編集画面を表示する。
- ④ [DIAL] (S) で、「BANK」を選択する。
- ⑤ [↵] (D) を押す。
- ⑥ [DIAL] (S) で、バンク「A」を選択する。



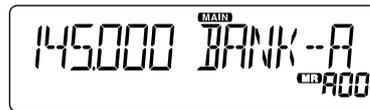
バンクを選択

- ⑦ [↵] (D) を押す。
- ⑧ [DIAL] (S) で、「WRITE」を選択する。
- ⑨ [↵] (D) を押す。
 - 「WRITE?」が表示されます。
- ⑩ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑪ [↵] (D) を押す。
 - ピピッと鳴ってメモリーが書き込まれ、VFOモードに戻ります。

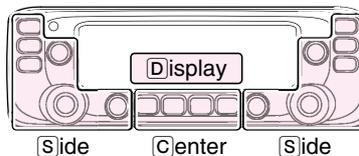
◇ メモリーバンクモードへの表示切り替え

メモリーチャンネルモードからメモリーバンクモードに表示を切り替えると、選択したバンク内のM-CHだけが選択できるようになります。

- ① [MR CALL] (S) を短く押す。
 - メモリーチャンネルモードになります。
- ② [MAIN BAND] (S) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す。
- ③ [DIAL] (S) で、任意のメモリーバンクを選択する。
 - ※ バンクネームを登録すると、ネームで表示します。



- ④ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - メモリーバンクモードになります。
- ⑤ [DIAL] (S) で、バンクチャンネルを選択します。
 - ※ ブランクチャンネルは表示されません。
 - ※ メモリーバンクモードを解除したい場合は、手順③でメモリーチャンネルを選択してください。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

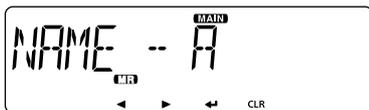
4 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー/バンクネームの入力

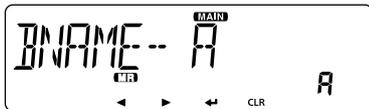
メモリーに書き込んでいる、すべてのチャンネルとバンクに、名前(ネーム)を入力できます。

● 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。

- ① ネームを編集するM-CHを選択する。(※P25)
 - バンクネームを入力するときは、ネームを編集するバンクを選択します。(※P29)
- ② [MW] (C) を短く押して、メモリー編集画面を表示する。
- ③ [DIAL] (S) で、「EDIT」を選択する。
- ④ [↵] (D) を押す。
- ⑤ [DIAL] (S) で、「NAME」を選択する。
 - バンクネームを入力するときは、「B NAME」を選択します。
- ⑥ [↵] (D) を押す。
- ⑦ [DIAL] (S) で、1文字目の文字を選択する。(例 A)



メモリーネーム入力時



バンクネーム入力時

● 入力できる文字一覧：

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	"	&	
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	["]	[&]	[]
\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	!
[\$]	[%]	[&]	[']	[(]	[)]	[*]	[+]	[,]	[-]	[.]	[/]	[!]
/	<	=	>	?	@	[\]	^	_		
[/]	[<]	[=]	[>]	[?]	[@]	[[]	[\]	[]]	[^]	[_]	[]	[]

- [CLR] (D) を押すと、選択した文字が削除されます。
- 文字を選択せずに [▶] (D) を押すと、スペースが挿入されます。
- ⑧ [◀]、または [▶] (D) を押して、カーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返し、6文字以内(スペースを含む)でネームを入力する。
- ⑩ ネームを入力したら、[↵] (D) を押す。
- ⑪ [DIAL] (S) で、「WRITE」を選択する。
- ⑫ [↵] (D) を押す。
 - 「OVERW?」が表示されます。
- ⑬ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑭ [↵] (D) を押す。
 - ピピッと鳴ってネームが保存され、VFOモードに戻ります。

【メモリーネームを表示させるには】

メモリーネームを表示させるには、EXMENUの「NAME」(メモリーネーム表示)項目を選択する。

(MENU-EXMENU > EXMENU-DISP > DISP-NAME)

■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHやCALL-CHは消去できます。

【ご注意】

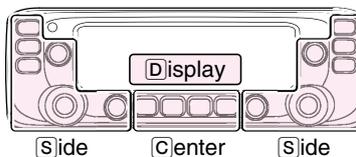
消去した内容は復活できません。

- 設定操作は、MAINバンドに対して動作します。
- ① [MR CALL](S)を短く押す。
 - メモリーモードになります。
 - CALL-CHを消去するときは、[MR CALL](S)を長く(ピツ、ピーと鳴るまで)押し、CALL-CHモードにします。
 - ② [MW](C)を短く押し、メモリー編集画面を表示する。
 - ③ [DIAL](S)で、「CLEAR」を選択する。
 - ④ [↵](D)を短く押す。
 - ⑤ [DIAL](S)で、消去するチャンネルを選択する。



チャンネルを
選択

- ⑥ [↵](D)を押す。
 - 「CLEAR?」が表示されます。
- ⑦ [DIAL](S)で、「YES」を選択する。
- ⑧ [↵](D)を押す。
 - ピピッと鳴ってメモリーが消去されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

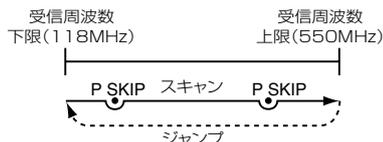
5 スキャンについて

■ スキャンについて

◇ VFOスキャン

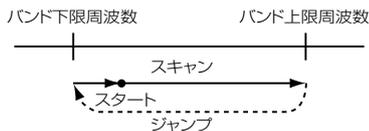
● ALL(フルスキャン) ☞P37

本製品の受信可能周波数範囲をすべてスキャンします。



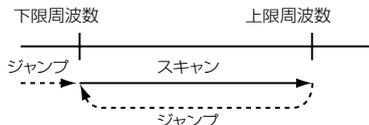
● BAND(バンドスキャン) ☞P37

表示している運用バンドの周波数範囲をスキャンします。



● PROG 0~24(プログラムスキャン) ☞P37

プログラムスキャンエッジに書き込んだ周波数範囲をスキャンします。



● P-LINK0~9(プログラムリンクスキャン) ☞P37

EXMENUの「P-LINK」(プログラムリンク)項目(☞P13)で指定したプログラムスキャンの範囲を、連続してスキャンします。

【ご参考】

「PSKIP」(☞P12)に指定された周波数は、スキャンから除外されます。

※ プログラムスキャンを動作させるには、EXMENUの「P-EDGE」(プログラムスキャンエッジ)項目から周波数を登録してください。

(☞P34)

◇ メモリースキャン

● ALL(メモリーフルスキャン) ☞P39

すべてのM-CHをスキャンします。

● BAND(バンドメモリースキャン) ☞P39

表示している運用バンドのM-CHをスキャンします。

● MODE(モードメモリースキャン) ☞P39

表示している受信モードを書き込んでいるM-CHをスキャンします。

◇ メモリーバンクスキャン

● ALL(フルバンクスキャン) ☞P39

すべてのバンクをスキャンします。

● B-LINK(バンクリンクスキャン) ☞P39

EXMENUの「B-LINK」(バンクリンク)項目(☞P12)で指定したバンクを連続してスキャンします。

● BANK-A~J(バンクスキャン) ☞P39

指定したバンクのM-CHをスキャンします。

【ご参考】

「PSKIP」、または「SKIP」が指定されたM-CHは、スキャン対象から除外されます。(小P40)

※ メモリースキャンを動作させるには、2つ以上の「M-CH」に、周波数を書き込んでください。

【デュプレックス(DUP)スキャン】

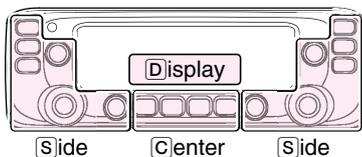
VFOモード、またはメモリーモードで、デュプレックス運用(※P46)のとき、その周波数(送信/受信の2波)をスキャンできません。

- ※ 「DUP-」、または「DUP」表示の点灯をご確認ください。
- ※ オフセット周波数が「0.000MHz」のときは動作しません。

【トーンスキャン】

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数、またはDTCSコードを使用しているかを検出するスキャンです。

- VFO/メモリー/CALL-CHモードに関係なく動作します。
トーン機能については、「トーンスケルチ機能」(※P52)をご覧ください。



説明文中のⓐ、ⓑ、またはⓒは、コントローラーの操作部分を示しています。

- ⓐ: Center (中央)
- ⓑ: Side (サイド)
- ⓒ: Display (表示部)

◇ スキャン中の[DIAL]操作について

- スキャンをスタートするとアップスキャンを開始します。
- スキャン中に[DIAL](ⓑ)を回すと、回す方向によってアップスキャンとダウンスキャンを切り替えできます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに[DIAL](ⓑ)を回すと、即時再開します。

◇ チューニングステップについて(VFOスキャン)

スキャン中に周波数が切り替わるステップ幅は、設定されているチューニングステップです。

プログラムスキャン、プログラムリンクスキャンの場合は、プログラムスキャンエッジで設定したチューニングステップにしたがいいます。

◇ 一時スキップ機能について

スキャン中に一時停止した周波数、またはM-CHを、設定した時間、スキャンから除外する「一時スキップ」の指定ができます。設定した時間を経過するかスキャンを解除すると、一時スキップ指定は解除されます。

- ※ 設定についてはP40をご覧ください。

【ご参考】

VFOスキャン時に、「スキップ」を指定した周波数も含めてスキャンする場合は、EXMENUの「P-SKIP」(プログラムスキップ)項目の設定を「OFF」にします。この設定を「OFF」にすると、スキップ機能は動作しません。(※P12)

5 スキャンについて

■ スキャンについて(つづき)

- VFOスキャン時は、VFOモードで設定している電波型式で動作します。
- メモリー/バンクスキャン時は、メモリーされている電波型式で動作します。

スキャン中



◇ 信号を受信すると

- 約10秒(初期値)経過すると、自動的に再開します。
また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再開します。
- 上記のタイマーは、MENUモードの、「PAUSE」(停止時間)項目と、「RESUME」(再開時間)項目で変更できます。(P18)

◇ スキャンネームについて(VFOスキャン)

プログラムスキャンエッジごとに、スキャンネームを登録できます。(P35)
登録すると、スキャンタイプ選択時、スキャンネームを表示します。

◇ スキャンストップ時のビーブ音設定

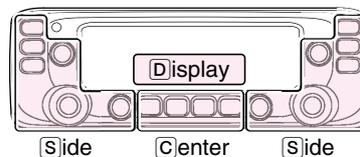
信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビーブ音を鳴らせます。EXMENUの「STOP B」(スキャンストップビーブ)項目で設定できます。(P14)

■ プログラムスキャンエッジの新規登録

プログラムスキャンのスキャン範囲を登録できます。
登録するプログラムスキャンエッジごとにスキャンネームやチューニングステップを設定できます。
出荷時の状態では、下記のプログラムスキャンエッジが登録されています。プログラムスキャンエッジは、P00～P24の25件登録できます。

工場出荷時に記憶している内容

- 00 : 118.000～550.000
- 01 : 144.000～146.000
- 02 : 430.000～440.000



説明文中の[S]、[C]、または[D]は、コントローラーの操作部分を示しています。

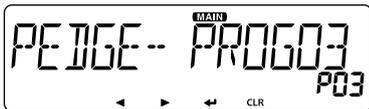
[C] : Center (中央)

[S] : Side (サイド)

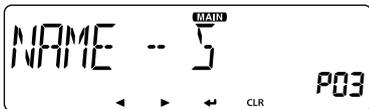
[D] : Display (表示部)

1. スキャン名の登録

- ① [MENU] (Ⓞ) を短く押す。
- ② [DIAL] (Ⓢ) で、EXMENUの「P-EDGE」(プログラムスキャンエッジ)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-SCAN > SCAN-P-EDGE)
- ③ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (Ⓢ) で、登録したいプログラムスキャンエッジ番号を選択する。(例：P03)



- ⑤ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
 - [◀] (Ⓞ) を押すと、前の画面に戻ります。
- ⑥ [DIAL] (Ⓢ) で、「NAME」を選択する。
- ⑦ [↵] (Ⓞ) を押して、スキャン名の登録画面を表示する。
- ⑧ [DIAL] (Ⓢ) で、1文字目の文字を選択する。
(例 SCAN03)



スキャン名入力時

- 入力できる文字一覧：

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	"	#	
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[!]	["]	[#]
\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	:
;	[]	[=]	[>]	[?]	[@]	[1]	[N]	[1]	[^]	[スペース]		

- [CLR] (Ⓞ) を押すと、選択した文字が削除されます。
 - 文字を選択せずに [▶] (Ⓞ) を押すと、スペースが挿入されます。
- ⑨ [◀]、または [▶] (Ⓞ) を押して、カーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
 - ⑩ 手順⑦、⑧を繰り返し、6文字以内(スペースを含む)で名前を入力する。
 - ⑪ 名前を入力したら、[↵] (Ⓞ) を押す。

2. スキャン周波数の登録

【ご注意】

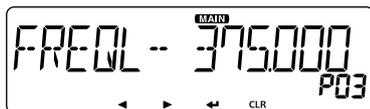
[下限周波数]と[上限周波数]には、必ず異なる周波数を入力してください。同じ周波数を入力したときは、プログラムスキャンが動作しません。

- ⑫ [DIAL] (Ⓢ) で、「FREQ L」を選択する。
- ⑬ [↵] (Ⓞ) を押して、スキャンの下限周波数の登録画面を表示する。

5 スキャンについて

■ プログラムスキャンエッジの新規登録

- ⑭ [DIAL] (S)で、1桁目の数字を選択する。
- ⑮ [◀] (D)、または [▶] (D)を押して、カーソルを移動させる。
 - 数字を入力する桁を選択します。
- ⑯ 手順⑭を繰り返し、6桁の周波数を入力します。
- ⑰ 周波数を入力したら、[↵] (D)を押す。(例：375.000)



スキャン下限周波数入力時

- ⑱ [DIAL] (S)で、「FREQ H」を選択し、⑬～⑰と同じ手順でスキャン上限周波数を入力する。
- ⑲ 周波数を入力したら、[↵] (D)を押す。

3. チューニングステップの登録

【ご注意】

[下限周波数]と[上限周波数]で異なるバンドの周波数を設定すると、チューニングステップの登録画面は表示されません。VFOモードで設定したそれぞれのバンドのチューニングステップで動作します。

- ⑳ [DIAL] (S)で、「TS」を選択する。
- ㉑ [↵] (D)を押して、チューニングステップの登録画面を表示する。
- ㉒ [DIAL] (S)で、登録したいチューニングステップを選択する。

チューニングステップ(kHz)

5	6.25	8.33*	10	12.5	15
20	25	30	50	Auto	

※ 「8.33」が選択できるのは、AIRバンドだけです。

AIRバンドでは、「8.33」、「25」、「Auto」だけ選択できます。

- ㉓ [↵] (D)を押す。
 - チューニングステップが登録されます。

4. 受信モード(電波型式)の登録

【ご注意】

- [下限周波数]と[上限周波数]で異なるバンドの周波数を設定すると、受信モードの登録画面は表示されません。VFOモードで設定したそれぞれのバンドの受信モードで動作します。
- AIRバンドを設定した場合は、モードが固定されるので、受信モードの登録画面は表示されません。

- ㉔ [DIAL] (S)で、「MODE」を選択する。
- ㉕ [↵] (D)を押して、受信モードの登録画面を表示する。
- ㉖ [DIAL] (S)で、登録したいモードを選択する。
- ㉗ [↵] (D)を押す。
 - モードが登録されます。

5. プログラムスキャンエッジの登録

- ㉘ [DIAL] (S)で、「WRITE」を選択する。
- ㉙ [↵] (D)を押す。
 - 「WRITE?」が表示されます。
- ㉚ [DIAL] (S)を回して、「YES」を選択する。
- ㉛ [↵] (D)を押す。
 - スキャンエッジが登録されます。
 - 「ピピッ」と鳴って、登録したスキャンエッジを選択した画面に戻ります。

■ VFOモードのスキャン

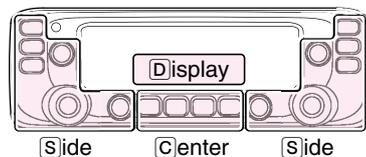
VFOモードのスキャンには、フルスキャン、バンドスキャン、プログラムスキャン、プログラムリンクスキャン、デュプレックススキャン、トーンスキャンがあります。

※ 「PSKIP」(☞P12)に指定された周波数は、スキャンから除外されます。

※ EXMENUの「P-SKIP」(プログラムスキップ)項目の設定を「OFF」にすると、「PSKIP」に指定された周波数もスキャンします。(☞P12)

◇ VFOスキャンの操作

- ① [V/MHz SCAN] (S)を長く押す。
- ② [DIAL] (S)で、スキャンタイプを選択します。
 - ALL : フルスキャン
 - BAND : バンドスキャン
 - P-LINK0~9 : プログラムリンクスキャン
 - PROG00~PROG24 : プログラムスキャン
 - DUP : デュプレックススキャン(☞P46)
(デュプレックス設定時のみ)
 - TONE : トーンスキャン
- ③ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャンがスタートします。
- ④ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャン動作が解除されます。



説明文中のⓐ、ⓑ、またはⓒは、コントローラーの操作部分を示しています。

- ⓐ: Center (中央)
- ⓑ: Side (サイド)
- ⓒ: Display (表示部)

信号を受信すると



スキャン中



スキャンネームが登録されている場合

スキャンネームが登録されている場合、スキャンタイプの選択時、スキャンネームが表示されます。

- スキャンネームの登録について : P35

プログラムリンクネームが登録されている場合

プログラムリンクネームが登録されている場合、スキャンタイプの選択時、プログラムリンクネームが表示されます。

- プログラムリンクネームの登録について : P13

5 スキャンについて

■ スキップ周波数の登録と解除について

◇ スキップ周波数の登録

VFOスキャン中に一時停止した周波数を、スキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにM-CHに登録する機能です。

例：FMモードでバンドスキャン中

- ① VFOスキャン(☞P37)を開始します。
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
- ② スキャンが一時停止している状態で、[MW] (C)を長く(ピツ、ピピツと鳴るまで)押す。
 - 一時停止した周波数を、スキップ周波数としてM-CHの末尾チャンネル「999」から順に書き込みます。



スキップ周波数書き込まれるM-CHが点滅

- ※ すでにM-CHの末尾にチャンネルが登録されている場合は、自動的にブランクチャンネルを探してそこに書き込みます。ブランクチャンネルがない場合はエラービープが鳴り、書き込まれません。
- ③ 書き込みが完了すると、スキャンが再開します。

【ご参考】

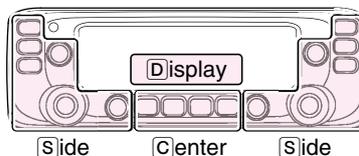
スキップ周波数書き込まれたM-CH自体を消去することで、スキップ設定を解除することもできます。(☞P40)

◇ スキップ周波数の解除

- ① [MR CALL] (S)を押す。
- ② [DIAL] (S)で、スキップを解除するM-CHを選択する。
(例 999)



- ③ [MW] (C)を押して、メモリー編集画面を表示する。
- ④ [DIAL] (S)で、「EDIT」を選択する。
- ⑤ [↵] (D)を押す。
- ⑥ [DIAL] (S)で、「SKIP」を選択する。
- ⑦ [↵] (D)を押す。
- ⑧ [DIAL] (S)で、「OFF」を選択する。
- ⑨ [↵] (D)を押す。
- ⑩ [DIAL] (S)で、「WRITE」を選択する。
 - 「OVERW?」が表示されます。
- ⑪ [DIAL] (S)で、「YES」を選択する。
- ⑫ [↵] (D)を押す。
 - ピピツと鳴ってスキップ周波数が解除されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

■ メモリーモードのスキャン

メモリーモードのスキャンは大きく分けて、「メモリースキャン」と「メモリーバンクスキャン」があります。

※ メモリースキャンを動作させるには、スキップ設定されていない M-CHを2つ以上書き込んでください。

◇ メモリースキャンの操作

メモリースキャンは、周波数を記憶している M-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

- ① [MR CALL] (S)を短く押す。
- ② [V/MHz SCAN] (S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
 - スキャンタイプの選択画面が表示されます。
- ③ [DIAL] (S)で、スキャンタイプを選択する。
 - ALL : フルスキャン
 - BAND : バンドスキャン
 - MODE : モードスキャン
 - DUP : デュプレックススキャン(※P46)
(デュプレックス設定時のみ)
 - TONE : トーンスキャン
- ④ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャンがスタートします。
- ⑤ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャン動作が解除されます。

【ご参考】

バンクネームが登録されている場合、スキャンタイプを選択すると、バンクネームが表示されます。

※ スキャン中は、バンクネームは表示されません。

◇ メモリーバンクスキャンの操作

メモリーバンクスキャンは、メモリーバンクに登録している M-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

※ バンクスキャンを動作させるには、バンクに M-CHが2つ以上登録されている必要があります。

- ① [MR CALL] (S)を短く押す。
- ② [MAIN BAND] (S)を長く押す。
- ③ [DIAL] (S)を回して、バンク(BANK-A~J)を選択する。
- ④ [MAIN BAND] (S)を短く押す。
 - メモリーバンクモードになります。
- ⑤ [V/MHz SCAN] (S)を長く押す。
- ⑥ [DIAL] (S)で、スキャンタイプを選択する。
 - ALL : フルバンクスキャン
 - B-LINK : バンクリンクスキャン
 - BANK-A~J : バンクスキャン
(M-CHが登録されているバンクだけが表示されます)
 - DUP : デュプレックススキャン(※P46)
(デュプレックス設定時のみ)
 - TONE : トーンスキャン
- ⑦ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャンがスタートします。
- ⑧ [V/MHz SCAN] (S)を短く押すと、スキャン動作が解除されます。

5 スキャンについて

■ スキップチャンネルの指定と解除について

任意のチャンネルにスキップを設定することで、スキャンの対象から除外できます。

- ① [MR CALL] (S) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、指定したいチャンネルを表示します。
- ③ [MW] (S) を長く押し、メモリー編集画面を表示する。
- ④ [↵] (D) を押す。
- ⑤ [DIAL] (S) で、「SKIP」を選択する。
- ⑥ [↵] (D) を押す。
- ⑦ [DIAL] (S) で、設定したい項目を選択する。
 - OFF : スキップ設定を解除します。
 - SKIP : メモリーモード時のスキャン範囲から除外されます。
 - PSKIP : VFOモード時とメモリーモード時の両方のスキャン範囲から除外されます。
- ⑧ [DIAL] (S) で、「WRITE」を選択する。
 - 「OVERW?」が表示されます。
- ⑨ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑩ [↵] (D) を押す。
 - ピピッと鳴って、チャンネルにスキップが設定、または解除されます。



■ 一時スキップの指定のしかた

スキャン中に一時停止した周波数を、設定した時間スキップする(スキャンの対象からはずれる)ように指定する機能です。スキップ周波数の登録はしたくないが、一時的にスキャン対象からはずしたいときに便利です。

※ 付属のマイクロホン(HM-207)、または別売品のマイクロホン(HM-154)やBluetooth®ヘッドセット(VS-3)を接続しているときに操作できる機能です。

- ① VFOスキャン(※P37)を開始します。
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
- ② マイクロホンの[一時スキップ]機能が割り当てられているキーを押します。
 - 一時スキップが設定されます。
- ③ 設定が完了すると、スキャンが再開します。
 - 設定時間を経過するか、スキャンを解除すると一時スキップ指定が解除されます。

【ご参考】

- 一時スキップは最大5件設定できます。
- メモリースキャン中に、上記手順②～③の操作をすると、一時停止したM-CHを、設定した時間(初期値:5分)スキップできます。
- 初期設定では、一時スキップ時間が「5分」に設定されています。EXMENUの「TEMP」(一時スキップ時間)項目で、「10分」、「15分」に変更できます。(※P12)

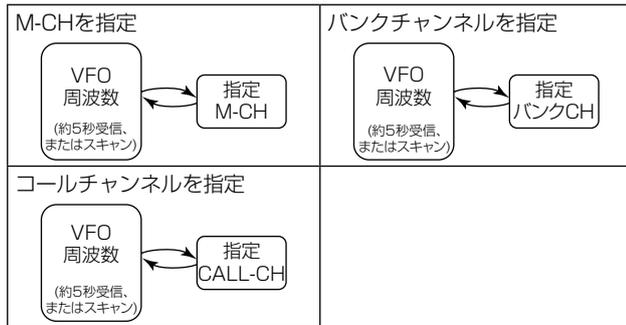
■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、受信やスキャンをしながら指定のプライオリティーチャンネル(M-CH/バンクCH/CALL-CH)を一定間隔でワッチ(信号の有無を確認)する機能です。

- 左側/右側の両バンドでプライオリティースキャンができます。
- この章では、MAINバンド側の操作を説明しています。

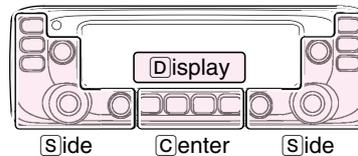
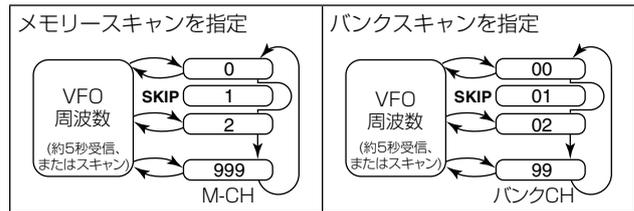
◇ VFOとプライオリティーチャンネル(☞P42)

VFO周波数を受信、またはVFOスキャンしながら、指定したプライオリティーチャンネルをワッチ(信号の有無を確認)します。ワッチするチャンネルは、M-CH、バンクCH、CALL-CHから指定できます。



◇ VFOとメモリー/バンクスキャン(☞P43)

VFO周波数を受信、またはVFOスキャンしながら、M-CH/バンクCHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。メモリースキャンとバンクスキャンが指定できます。



説明文中の☉、☔、または☒は、コントローラーの操作部分を示しています。

- ☉: Center (中央)
- ☔: Side (サイド)
- ☒: Display (表示部)

6 プライオリティースキャン

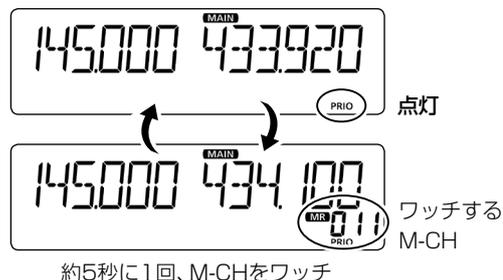
■ VFOとプライオリティーチャンネル

◇ VFO周波数とプライオリティーチャンネル

VFO周波数を受信しながら、指定したプライオリティーチャンネルを約5秒に1回、ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① VFOモードで周波数を設定する。(※P21)
 - ② ワッチしたいプライオリティーチャンネルを選択する。(※P25、P29)
 - M-CH、バンクチャンネル、またはCALL-CHを選択します。
 - ③ [MENU] (C)を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
 - ④ [DIAL] (S)で、「PRIO」を選択する。
 - ⑤ [↵] (D)を短く押す。
 - ⑥ [DIAL] (S)で、「ON」、または「BELL」を選択する。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - BELL : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で「(●●)」が点滅します。
 - ⑦ [↵] (D)を短く押す。
 - ⑧ [MAIN BAND] (S)を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。
 - [PRIO]表示が点灯して、VFO周波数を受信しながら、プライオリティースキャンがスタートします。
- ※ プライオリティースキャンを解除したい場合は、手順⑥で「OFF」を選択してください。

例：VFOモード433.920MHzとプライオリティーチャンネルに指定したM-CH「11」をワッチする時の表示



◇ VFOスキャンとプライオリティーチャンネル

VFOスキャンしながら、指定したプライオリティーチャンネルを約5秒に1回、ワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① 左記、「VFO周波数とプライオリティーチャンネル」の手順①～⑧を操作する。
 - [PRIO]表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
- ② [V/MHz SCAN] (S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
- ③ [DIAL] (S)で、スキャンしたいタイプを選択する。
- ④ [V/MHz SCAN] (S)を短く押す。
 - プライオリティースキャンしながら、VFOスキャンがスタートします。

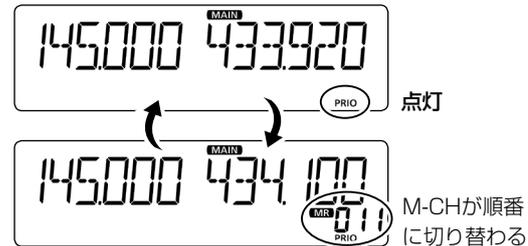
■ VFOとメモリー/バンクスキャン

◇ VFO周波数とメモリー/バンクスキャン

VFO周波数を受信しながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① VFOモードで周波数を設定する。(※P21)
 - ② メモリーモードを選択する。(※P25)
 - ③ [V/MHz SCAN] (S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
 - ④ [DIAL] (S)で、スキャンしたいタイプを選択する。
 - ⑤ [V/MHz SCAN] (S)を短く押す。
 - メモリースキャンがスタートします。
 - ⑥ [MENU] (C)を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
 - ⑦ [DIAL] (S)で、「PRIO」を選択する。
 - ⑧ [↵] (D)を短く押す。
 - ⑨ [DIAL] (S)で、「ON」、または「BELL」を選択する。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - BELL : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で「(●●)」が点滅します。
 - ⑩ [↵] (D)を短く押す。
 - ⑪ [MAIN BAND] (S)を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。
 - [PRIO]表示が点灯して、メモリースキャンしながら、プライオリティースキャンがスタートします。
- ※ プライオリティースキャンを解除したい場合は、手順⑨で「OFF」を選択してください。

例：VFOモード433.920MHzとM-CHを順番にワッチする時の表示

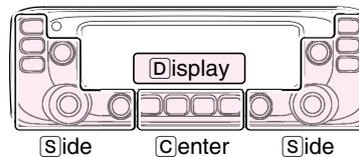


約5秒に1回、M-CHを順番にワッチ

◇ VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン

VFOスキャンしながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

- ① 左記、「VFO周波数とメモリー/バンクスキャン」の手順①～⑪を操作する。
 - [PRIO]表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。
- ② [V/MHz SCAN] (S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
- ③ [DIAL] (S)で、スキャンしたいタイプを選択する。
- ④ [V/MHz SCAN] (S)を短く押す。
 - プライオリティースキャンしながら、VFOスキャンがスタートします。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。
 C: Center (中央)
 S: Side (サイド)
 D: Display (表示部)

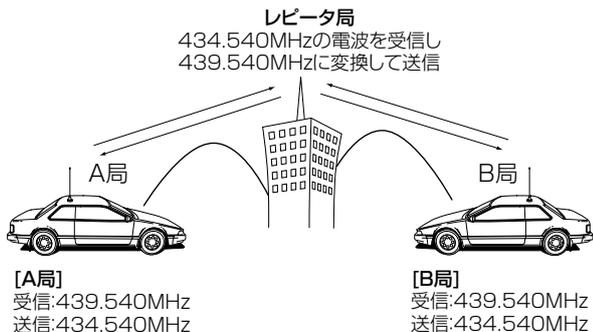
7 レピータ/デュプレックス運用について

■ オートレピータ機能での交信

本製品は、オートレピータ機能を搭載しています。

設定するレピータ周波数が、439MHz～440MHzである場合、自動的にトーンエンコーダー(88.5Hz)とデュプレックスが設定され、レピータ運用できます。

- ◎ 初期設定では、オートレピータ機能が「ON」に設定されています。MENUモードの「AUTORP」(オートレピータ)項目で「OFF」に設定できます。(※P17)
- ◎ トーン周波数(初期値：88.5Hz)とオフセット周波数(初期値：5MHz)は、MENUモードの「R TONE」(レピータトーン周波数)項目、「OFFSET」(オフセット周波数)項目で変更できます。(※P17)



- ◎ 430MHz帯では、各地域にレピータが設置されています。レピータ局の周波数は、運用の前にJARLのホームページや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。

◇ レピータ周波数の設定

- MAINバンド側の操作を説明しています。

- ① レピータを運用するバンドの【MAIN BAND】(S)を短く押す。
 - MAINバンドを設定します。
 - ※ 設定したMAINバンドがメモリーモードのときは、【V/MHz SCAN】(S)を短く押して、VFOモードにします。
- ② 【MAIN BAND】(S)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、運用バンドの選択状態にします。
- ③ 【DIAL】(S)で、アマチュアバンドの430Mバンドを選択します。
- ④ 【MAIN BAND】(S)を短く押して、周波数表示に戻します。
- ⑤ 【DIAL】(S)で、交信する周波数を設定します。
 - 439.000MHz～440.000MHzに合わせます。
 - ※「DUP-T」を表示して、トーン周波数(88.5Hz/初期値)とオフセット周波数(5.000MHz/初期値)が自動的に設定されます。

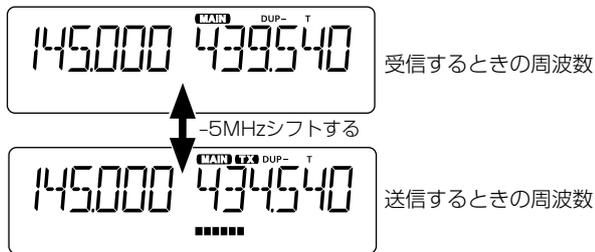
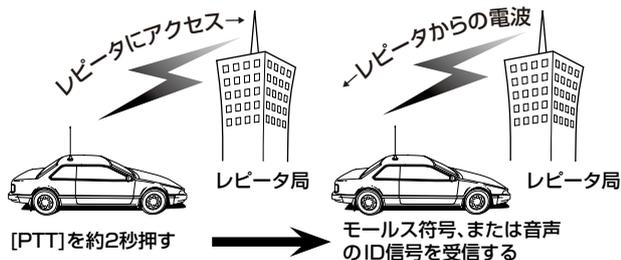


【ご参考】

レピータアクセス用トーン周波数(※P17)とオフセット周波数(※P46)を変更すると、オートレピータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。

◇ レピータ局を経由して交信する

- ① 約2秒、マイクロホンの [PTT] を押す。
 - 発射した電波がレピータ局に届いていれば、[PTT]をはなした直後に、自動的にレピータのコールサイン(ID信号)がモールス符号、または音声で受信できます。
- ② シンプレックス運用と同様に、送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。



◇ レピータ局の中継が必要かどうか確認する

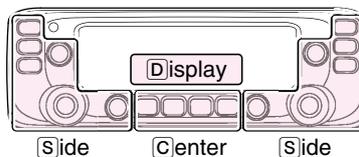
レピータ局の運用中に、レピータを中継しなくても交信できるかどうか確認できます。

[MONI DUP] (Ⓞ) を短く押して、レピータにアクセスする周波数をモニターします。

この状態で相手局の信号を受信できれば、その局とはレピータを使用しなくても交信できます。

- ※ モニター動作中は、「BUSY」表示が点滅します。
- ※ モニターしているあいだも、周波数表示がオフセット周波数分だけシフトします。
- ※ 交信相手の信号が受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移ってシンプレックスで交信してください。
- ※ アッテネーター(減衰器)が動作している場合は、モニター機能を動作させても正しく確認できません。事前にアッテネーター(減衰器)機能を解除してください。

モニター中の画面



説明文中のⓄ、Ⓟ、またはⓈは、コントローラーの操作部分を示しています。

Ⓞ: Center (中央)

Ⓟ: Side (サイド)

Ⓢ: Display (表示部)

7 レピータ/デュプレックス運用について

■ デュプレックス運用について

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をオフセット周波数分ずらして交信することです。

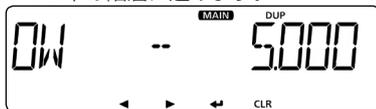
設定するレピータ周波数が、439MHz～440MHz以外の場合は、手動でデュプレックスを設定してレピータ運用します。

◇ オフセット周波数の設定

- ① [MENU] (Ⓞ) を短く押して、MENUモードを表示する。
- ② [DIAL] (Ⓢ) で、「MENU-OFFSET」(オフセット周波数)項目を選択する。



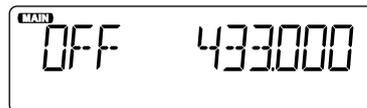
- ③ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。



- ④ [DIAL] (Ⓢ) で、設定したいオフセット周波数を設定する。
 - 0.000MHz～59.995MHzの範囲で設定します。
 - 設定しているチューニングステップ(TS)で切り替わります。
 - [V/MHz SCAN] (Ⓢ) を短く押すと、1MHzステップで周波数が切り替わります。
- ⑤ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
- ⑥ [MAIN BAND] (Ⓢ) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。

◇ デュプレックスモードの設定

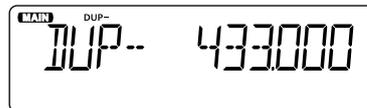
- MAINバンド側の操作を説明しています。
- ① [MONI DUP] (Ⓞ) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す。
 - DUP/TONE項目が表示されます。



- ② [DIAL] (Ⓢ) で、デュプレックスモードを選択する。

- OFF : シンプレックス運用をします。
- DUP-(マイナス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分低くなります。
- DUP+(プラス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分高くなります。
 - ※ 設定すると、ディスプレイに「DUP-」、または「DUP」が表示されます。

(設定例 : DUP-(マイナス))

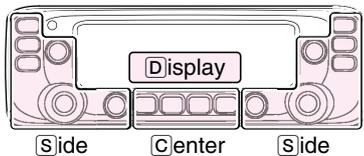


◇ デュプレックスモードで交信する

- ① 交信の前に [MONI DUP] (C) を短く押して、他局が送信周波数を使用していないか確認します。
 - 設定しているオフセット周波数分、受信周波数がシフトします。
- ② 送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

【ご注意】

オートレピータ機能(※P17)が、「ON」に設定されている場合、439.000MHz~440.000MHz以外の周波数に変更すると、デュプレックスモードは解除されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- C: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

■ 送信時のオフバンド表示について

レピータ局にアクセスしたときや、デュプレックスモードで送信したとき、下のような表示になる場合は、オフセット周波数(※P46)を設定しなおしてください。

※ アマチュアバンドからはずれるようなオフセット周波数(シフト幅)に設定されているため、送信できないことを知らせる表示です。



8

各種機能の使いかた

■ ホームCHビープ機能について

[DIAL] (S)を回して、特定の周波数やメモリーチャンネルに切り替わったときに、ビープ音を鳴らす機能です。

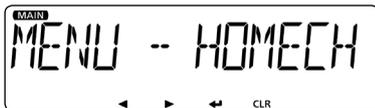
画面を見なくても、音で確認できるので便利です。

※ AIRバンドでは、ホームCHに設定している周波数だけでなく、運用モード(AM/AM-N)も一致したときだけ、ビープ音が鳴ります。

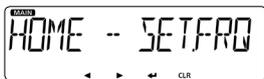
◇ ホームCHを設定する

VFOモードとメモリーモード、それぞれにホームCHを設定できます。

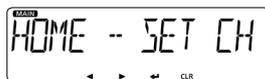
- ① MAINバンド側で、ホームCHビープを鳴らしたい周波数、またはM-CHを設定する。
- ② [MENU] (C)を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ③ [DIAL] (S)で、「HOMECH」(ホームCH)項目を選択する。



- ④ [J] (D)を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ⑤ [DIAL] (S)で、「SET.FRQ」(周波数設定)項目、または「SET CH」(チャンネル設定)項目を選択する。



VFO周波数の場合



M-CHの場合

- ⑥ [J] (D)を押す。
 - 「ピピッ」と鳴り、選択されている周波数、またはM-CHがホームチャンネルとして登録され、MENUモードが解除されます。

◇ ホームCHビープ機能を使う

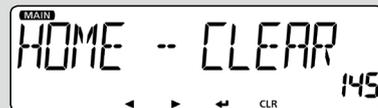
[DIAL] (S)を回して登録した周波数やM-CHに切り替わったときに、「ブツ」というビープ音が鳴ります。

【ご参考】

付属のマイクロホン(HM-207)の[HOME CALL]を短く押すと、ホームCHに切り替わります。EXMENUの「HOME B」(ホームCHビープ)項目で、ビープ音が鳴らないように設定できます。(P14)

【ご参考】登録したホームCHを削除したいときは

左記の手順⑤で、「CLEAR」を選択し、[J] (D)を短く押します。



■ DTMFメモリー機能の使いかた

最大24桁の DTMFコードを、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶させられます。

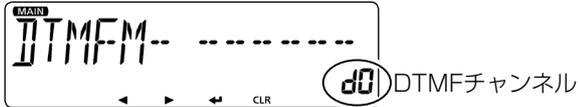
※ 画面上では、DTMFコードの「*」は「E」、「#」は「F」と表示されます。

◇ DTMFメモリーの書き込みかた

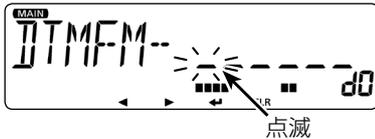
- ① [LOW DTMF] (C) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す。
 - DTMFメニューに切り替わります。
- ② [DIAL] (S) で、「MEMORY」(DTMFメモリー)項目を選択する。



- ③ [J] (D) を押す。
 - DTMFメモリー選択画面になります。
- ④ [DIAL] (S) で、DTMFコードを書き込むチャンネルを選択する。



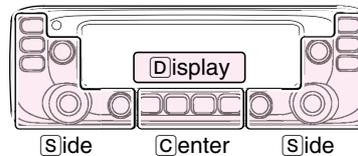
- ⑤ [J] (D) を押す。
 - DTMFメモリー編集モードに入ります。



- ⑥ [DIAL] (S) で文字を選択、[▶] (D) で確定を繰り返し、コードを入力する。



- [◀] (D)、または [▶] (D) を押すとカーソルが移動し、コードを入れる桁が選択できます。
 - [CLR] (D) を押すと、カーソルで選択した文字と、それより右にあるすべてのコードを削除できます。
 - ※ カーソルが右端(右端)にあるときは、左隣りの文字が削除されます。
 - ※ [CLR] (D) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押すと、すべてのコードを削除できます。
- ⑦ すべてのコードを入力したら、[J] (D) を押す。
 - 「ピピッ」と鳴り、入力したチャンネルにDTMFコードが書き込まれ、DTMFメモリー選択画面に戻ります。
 - ⑧ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - DTMFメニューが解除されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

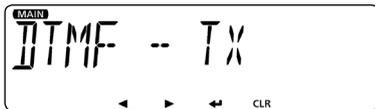
- C: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

8 各種機能の使いかた

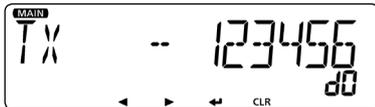
■ DTMFコードの送出手かた

◇ DTMFメモリーに登録したコードを送出する

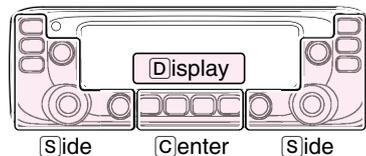
- ① [LOW DTMF] (Ⓞ) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す。
 - DTMFメニューに切り替わります。
- ② [DIAL] (Ⓢ) で、「TX」(DTMF送信)項目を選択する。



- ③ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - DTMFメモリー選択画面になります。
- ④ [DIAL] (Ⓢ) で、送りたいDTMFメモリーチャンネルを選択する。



- ⑤ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - DTMFコードが送られ、DTMFメニューが解除されます。

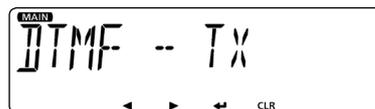


説明文中のⓄ、Ⓢ、またはⓄは、コントローラーの操作部分を示しています。

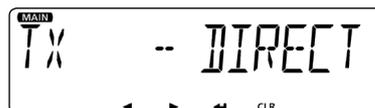
- Ⓞ: Center (中央)
- Ⓢ: Side (サイド)
- Ⓞ: Display (表示部)

◇ 送出手かたを直接入力する

- ① [LOW DTMF] (Ⓞ) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す。
 - DTMFメニューに切り替わります。
- ② [DIAL] (Ⓢ) で、「TX」(DTMF送信)項目を選択する。



- ③ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - DTMFメモリー選択画面になります。
- ④ [DIAL] (Ⓢ) で、「DIRECT」(DTMFダイレクト入力)項目を選択する。



- ⑤ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - DTMFコード編集モードに入ります。
- ⑥ 前ページの「DTMFコードの書き込みかた」と同様にDTMFコードを編集します。
- ⑦ [↵] (Ⓞ) を押す。
 - 入力されたコードが送られ、DTMFメニューが解除されます。

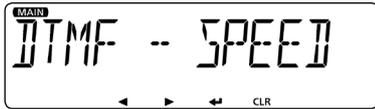
【ご参考】

DTMFの送出手かた中に [LOW DTMF] (Ⓞ) を短く押すと、送出手かたが停止します。

◇ DTMFスピードの設定

DTMFコードの1桁あたりの送出スピードは約100ミリ秒に初期設定されていますが、変更できます。

- ① [LOW DTMF] (C) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す。
 - DTMFメニューに切り替わります。
- ② [DIAL] (S) で、「SPEED」(DTMFスピード)項目を選択する。



- ③ [ENT] (D) を押す。
 - DTMFスピード選択画面になります。
 - [▶] (D) を押しても、1つ下の階層に進みます。
 - 1つ上の階層に戻るには、[◀] (D) を押します。
- ④ [DIAL] (S) で、送出スピードを選択する。
 - 100 : 1桁あたり約100ミリ秒で送出(初期値)
 - 200 : 1桁あたり約200ミリ秒で送出
 - 300 : 1桁あたり約300ミリ秒で送出
 - 500 : 1桁あたり約500ミリ秒で送出
- ⑤ [ENT] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
- ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - DTMFメニューが解除されます。

8 各種機能の使いかた

■ トーンスケルチ機能

自局が設定したトーンと同じ周波数、またはコードを受信したときだけ、スケルチが開いて受信できる機能です。

特定の相手局と交信するときにこの機能を設定することで、他局の信号の受信によりスケルチが開かず、快適な待ち受け受信ができます。

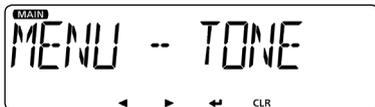
また、自局が設定したトーンを受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ(TSQL-R：受信時だけ)も用途にあわせてお使いください。

送信と受信で異なるトーン周波数、またはコードを使用することもできます。

◇ トーンスケルチの操作

1. トーン機能を設定する

- ① [MENU] (F) (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ② [DIAL] (S) で、「TONE」(トーン)項目を選択する。



- ③ [↓] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (S) で、トーンスケルチのタイプを選択する。
(右記参照)
 - ※ トーンスケルチ機能を使用するには、「OFF」、「TONE」、または「DTC.OFF」以外を選択します。

- OFF : トーンスケルチ機能を使用しない。
- TONE : レピータトーン(トーンエンコーダー)機能を設定する。
- TSQL(●) : トーンスケルチ機能を設定する。(ポケットビープ機能ON)
- TSQL : トーンスケルチ機能を設定する。
- DTCS(●) : DTCSコードスケルチ機能を設定する。(ポケットビープ機能ON)
- DTCS : DTCSコードスケルチ機能を設定する。
- TSQL-R : 逆トーンスケルチ機能を設定する。
- DTCS-R : 逆DTCSスケルチ機能を設定する。
- DTC.OFF : 送信時には設定したDTCSコードを付加し、受信時にはトーン機能を使用しない。
- TON.DTC : 送信時にはレピータトーン周波数を搬送波に重畳し、受信時にはその信号に含まれるDTCSコードと極性が一致したときだけ、スケルチが開く。
- DTC.TSQ : 送信時には設定したDTCSコードを付加し、受信時にはその信号に含まれるCTCSSトーン周波数が一致したときだけ、スケルチが開く。
- TON.TSQ : 送信時にはレピータトーン周波数を搬送波に重畳し、受信時にはその信号に含まれるCTCSSトーン周波数が一致したときだけ、スケルチが開く。

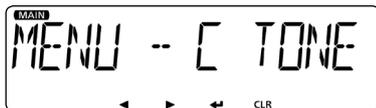
- ⑤ [↵] (D) を押す。
- ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。
 - 必要に応じて、トーン周波数、DTCSコードなどを設定してください。(P53～P54)

2. 交信する

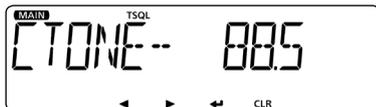
[PTT]を押しながら、相手局を呼び出して、トーンスケルチ機能を使用していないときと同様に交信します。

◇ トーン周波数を設定するには

- ① [MENU] (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ② [DIAL] (S) で、「C TONE」(CTCSS トーン)項目を選択する。



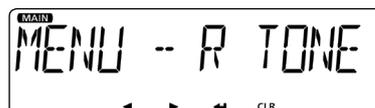
- ③ [↵] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (S) で、トーン周波数を選択する。



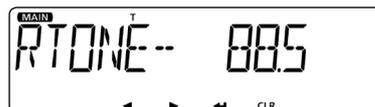
- 67.0Hz～ 254.1Hzの範囲で設定します。
- ⑤ [↵] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。

◇ レピータトーン周波数を設定するには

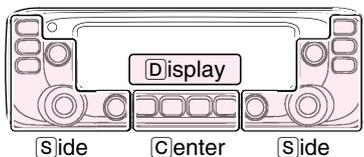
- ① [MENU] (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ② [DIAL] (S) で、「R TONE」(レピータトーン)項目を選択する。



- ③ [↵] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (S) で、トーン周波数を選択する。



- 67.0Hz～ 254.1Hzの範囲で設定します。
- ⑤ [↵] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。

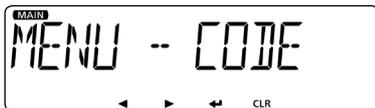


説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。
 C: Center (中央)
 S: Side (サイド)
 D: Display (表示部)

8 各種機能の使いかた

◇ DTCSコードを設定するには

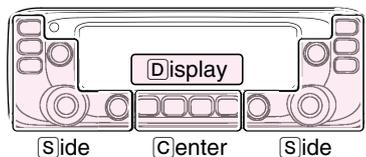
- ① [MENU] (C) (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ② [DIAL] (S) で、「CODE」(DTCSコード)項目を選択する。



- ③ [↵] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (S) で、DTCSコードを選択する。



- 023～754の範囲で設定します。
- ⑤ [↵] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。

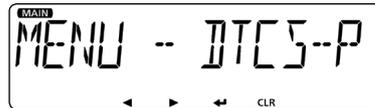


説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- C: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

◇ DTCSの極性を設定するには

- ① [MENU] (C) (C) を短く押す。
 - MENUモードが表示されます。
- ② [DIAL] (S) で、「DTCS-P」(DTCS極性)項目を選択する。



- ③ [↵] (D) を押す。
 - 1つ下の階層に進みます。
- ④ [DIAL] (S) で、DTCS極性を選択する。



- BOTH N : 送信/受信とも反転しない。
 - TN-RR : 送信側は反転しないで、受信側は反転する。
 - TR-RN : 送信側は反転し、受信側は反転しない。
 - BOTH R : 送信/受信とも反転する。
- ⑤ [↵] (D) を押す。
 - 選択内容を確定し、1つ上の階層に戻ります。
 - ⑥ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - MENUモードが解除されます。

■ クローニングについて

クローニングとは、1台のIC-2730のメモリーチャンネルや設定内容を、ほかのIC-2730にコピーする機能です。

クローニングには、CS-2730(クローニングソフトウェア)とクローニングケーブル(別売品)を使ってパソコンからクローニングする方法と、別売品のクローニングケーブルを使って、無線機間でクローニングする方法があります。

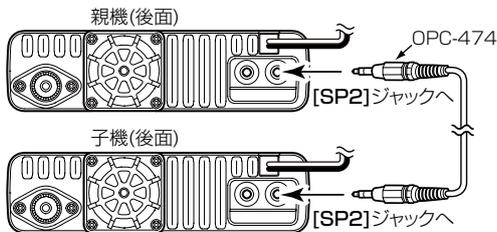
◇ クローニングソフトウェアを使ったPC間クローニング

CS-2730(クローニングソフトウェア)とクローニングケーブル(別売品)を使って、パソコンでクローニングできます。詳しくは、CS-2730の取扱説明書をご覧ください。

◇ 無線機間クローニング

1. 親機と子機の接続

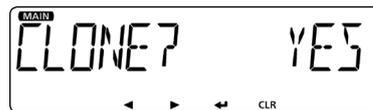
- ① 親機(クローニングデータを送る側)と子機(受ける側)の電源を切ります。
- ② OPC-474(別売品)で親機と子機を図のように接続します。



- ③ 親機と子機の [ON] を長く押して、電源を入れます。

2. 子機側の設定

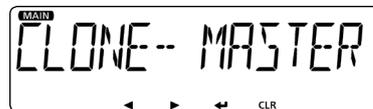
- ④ 子機の [MENU] (☰) (C) を短く押す。
- ⑤ [DIAL] (S) で、「CLONE」(クローン)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-OTHERS > OTHER-CLONE)
- ⑥ [↓] (D) を押す。
- ⑦ [DIAL] (S) で、「CLONE」(クローンモード)項目を選択する。
- ⑧ [↓] (D) を押す。
 - 「CLONE?」が表示されます。
- ⑨ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。



- ⑩ [↓] (D) を押す。
 - クローンモード画面が表示されます。

3. 親機側の設定

- ⑪ 親機の [MENU] (☰) (C) を短く押す。
- ⑫ [DIAL] (S) で、「CLONE」(クローン)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-OTHERS > OTHER-CLONE)
- ⑬ [↓] (D) を押す。
- ⑭ [DIAL] (S) で、「MASTER」(クローンマスターモード)項目を選択する。



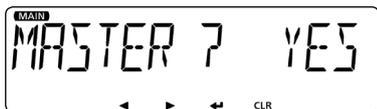
8 各種機能の使いかた

◇ 無線機間クローニング(つづき)

⑮ [↵] (D) を押す。

- 「MASTER?」が表示されます。

⑯ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。



⑰ [↵] (D) を押す。

- 「CLONE M」(クローンモード)画面が表示されます。

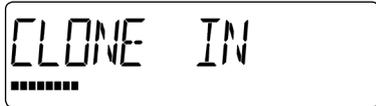


⑱ [↵] (D) を押すと、クローニングが始まります。

- 親機側では「CLONE OUT」が表示されます。

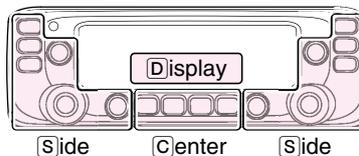


- 子機側では「CLONE IN」が表示されます。



⑲ クローニングが完了すると、クローンモード画面に戻ります。

- 子機の電源を入れなおすと、クローニングした内容で運用できます。
- 親機の電源を入れなおすと、クローンモードが解除されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

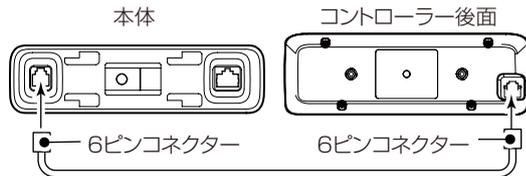
D: Display (表示部)

■ コントローラーと本体の接続のしかた

コントローラーと本体を、付属のコントローラーケーブルで接続します。

※ 設置条件(座席の下、またはトランクルームなど)により、下記の別売品を用意しています。

- OPC-440 : マイク延長ケーブル(5m)
- OPC-647 : マイク延長ケーブル(2.5m)
- OPC-1156 : コントローラー延長ケーブル(3.5m)
(中継コネクタ付き)
- SP-35 : 外部スピーカー (2m)
- SP-35L : 外部スピーカー (6m)
- SP-30 : 外部スピーカー (2.8m)

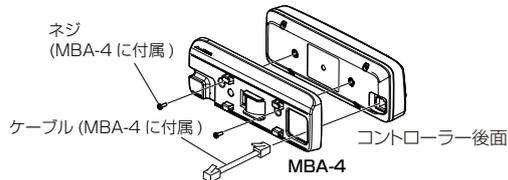


◇ MBA-4(コンビネーションブラケット)の取り付けかた

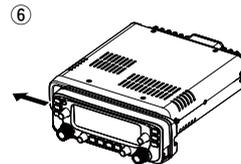
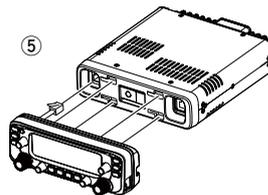
別売品のMBA-4(コンビネーションブラケット)で、コントローラーと本体を一体化します。

- ① コントローラーと本体を接続している6ピンコネクタケーブルを取りはずす。
- ② MBA-4をコントローラーに取り付ける。
 - MBA-4に付属のネジ(M2.6X6:2本)を使用して、MBA-4をコントローラーの後面に固定します。

- ③ MBA-4に付属のケーブルをコントローラーの後面に接続する。



- ④ 手順③で接続したケーブルの片側を本体に接続する。
- ⑤ MBA-4の突起部を本体にはめ込む。(下図参照)
- ⑥ 左にスライドして、固定する。(下図参照)



■ マイクロホンの接続

本体、またはコントローラーの8ピンコネクタにマイクロホンを接続します。



9 設置と接続

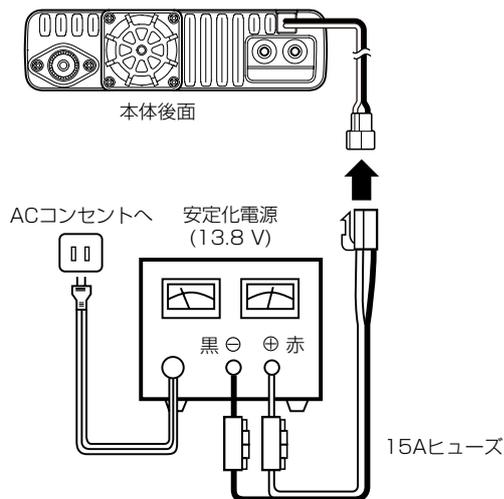
■ 安定化電源の接続

ご家庭のジャックなどで本製品を運用する場合、13.8V(電流容量15A以上)の安定化電源に接続してください。

- 付属のDCケーブルの黒色を⊖(マイナス)端子に、赤色を⊕(プラス)端子に接続します。

△警告

DC電源ケーブルのヒューズホルダーは絶対に取りはずさないでください。

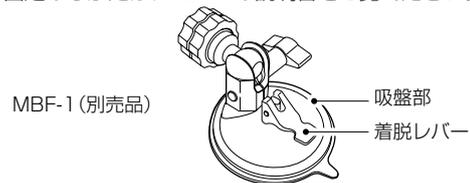


■ コントローラーの設置

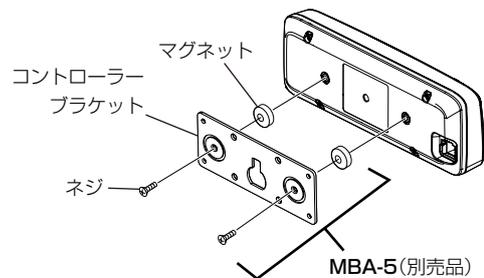
◇ コントローラーを車内に固定するには

コントローラーブラケット(別売品:MBA-5)とマウントベース(別売品:MBF-1)を利用することで、コントローラーをダッシュボードやコンソールに固定(※P59)できます。

- ① MBF-1をダッシュボードやコンソールに固定する。
 - 固定のしかたは、MBF-1の説明書をご覧ください。

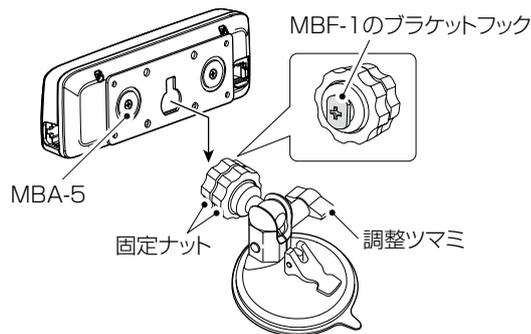


- ② MBA-5をコントローラーに取り付ける。
 - MBA-5に付属のネジ(M2.6X8:2本)を使用して、MBA-5をコントローラーの裏面に固定します。



■ コントローラーの設置 (つづき)

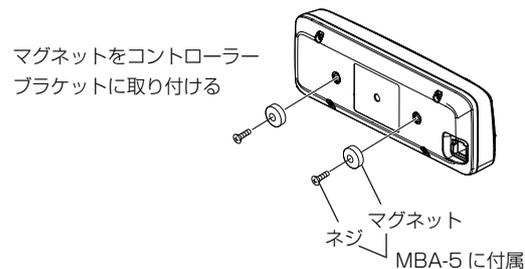
- ③ MBA-5のガイドをMBF-1のブラケットフックに差し込む。
※ブラケットフックの向きにあわせて、ガイドに差し込んでください。
- ④ 固定ナットを締めて、ブラケットフックに固定する。
- ⑤ 調整ツマミで、見えやすい位置に調整する。



◇ コントローラーを壁面に取り付けるには

別売品のMBA-5(コントローラーブラケット)で、ブラケットを壁などに固定し、コントローラーを壁面に取り付けできます。

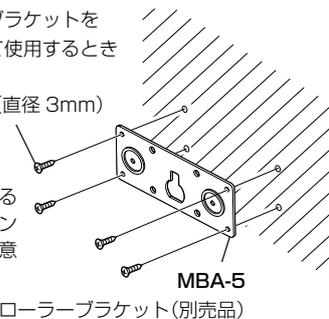
※ 壁面取り付け時は、市販のタッピングネジ(3mm)をご用意ください。



コントローラーブラケットを壁などに固定して使用するとき

市販のネジ (直径 3mm)

※ 中央のネジ穴を使用する場合は、市販のタッピングネジ(4mm)をご用意ください。



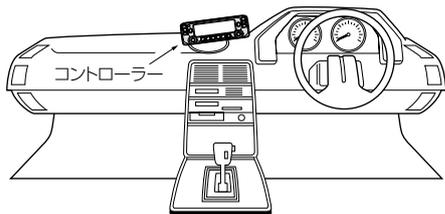
9 設置と接続

■ 車内への設置場所について

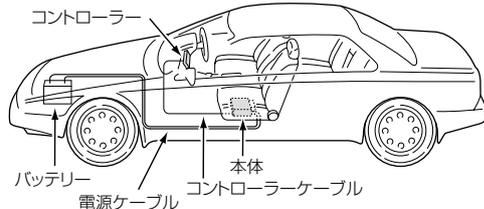
△注意

- 安全運転に支障のない場所に設置してください。
- 直射日光のあたる場所、ヒーターやクーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所へ設置しないでください。
- 本製品を踏んだり、ものを置いたりしない場所へ設置してください。

● コントローラーの設置例



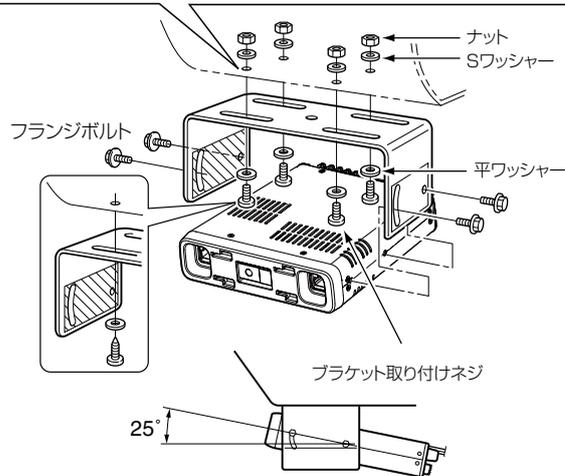
● 本体の設置例



電源ケーブルを車に配線するには専門技術と経験が必要です。安全のため、お買い上げの販売店、または専門業者に依頼されることをおすすめします。

別売品のMBF-4(車載ブラケット)を使用して、ブラケットがしっかりと固定される場所に取り付けます。

あらかじめブラケットの取り付け位置に、5.5mm～5.6mm程度の穴を4ヶ所あけておきます。
タッピングネジの場合は3mm程度の穴を開けておきます。



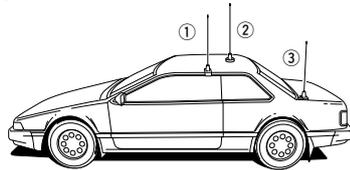
△注意

ブラケット取り付け時、別売品に付属のネジ以外は、使用しないでください。

■ アンテナの接続

● アンテナの取り付け場所

- ① ルーフサイド型
- ② ルーフトップ型
- ③ トランクリッド型



無線機の性能は、使用するアンテナの良否によって大きく左右されます。目的に合ったアンテナを、正しい状態で使用することがアンテナの効率を上げることになります。

- ① アンテナは、本体後面パネルのアンテナコネクタに接続してください。
- ② 同軸ケーブルは、できるだけ短くなるように配線してください。
- ③ 同軸ケーブルの引き込み口から、雨水が入らないようにご注意ください。

◇ 固定運用時のアンテナについて

市販のアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、用途や設置スペースに合わせてお使いください。

- ① 無指向性アンテナ(グランドプレーンなど)
ローカル局やモバイル局との交信に適しています。
- ② 指向性アンテナ(八木アンテナなど)
遠距離局や特定局との交信に適しています。

◇ 同軸ケーブルについて

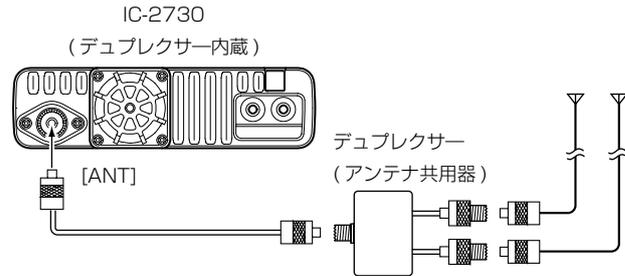
アンテナの給電インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスは、50Ωのものをお使いください。

同軸ケーブルには各種ありますが、できるだけ損失の少ないケーブルを、できるだけ短くしてお使いください。

◇ 内蔵のデュプレクサーについて

本製品はデュプレクサーを内蔵していますので、市販のデュアルバンドアンテナを接続することにより、配線がきわめて簡単にできます。なお、144MHzバンド、430MHzバンド専用アンテナをそれぞれ同時に接続される場合は、市販のデュプレクサーをお使いください。

● VHF/UHF専用アンテナ接続時



9 設置と接続

■ 電源の接続

電源は、付属のDC電源ケーブルを使って、車のバッテリー(12V系)に直接接続してください。

また、DC電源ケーブルを車に配線するときは、車両ディーラーや本製品をお買い上げの販売店にご相談ください。

△警告(DC電源ケーブルについて)

- 配線時は、極性(赤色が⊕(プラス)、黒色が⊖(マイナス))を間違えないでください。
- 配線時、DC電源ケーブルのヒューズホルダーは、絶対に取りはずさないでください。
- DC電源ケーブルを無理やり引っ張ったり、曲げたりしないでください。
また、DC電源ケーブルの上にものを載せたり、踏みつけたりしないところに配線してください。
- 付属、または指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。

● 電源接続時のご注意



24V系バッテリーの車は、そのままでは接続できません。DC-DCコンバーター(24Vを13.8Vに変換する)が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



シガレットライターから電源を取っても電流容量が足りません。また、容量が足りても、誤動作を生ずる原因になります。

● 車内からエンジンルームへの配線

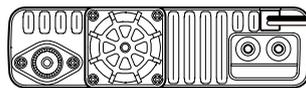
電源ケーブルを車に配線するには専門技術と経験が必要です。

安全のため、お買い上げの販売店、または専門業者に依頼されることをおすすめします。

◇ 固定運用時の電源について

本機を固定局として運用される場合、DC13.8V 15A以上の安定化電源装置をお使いください。

● 本機とバッテリーの接続



OPC-345A

ヒューズ

⊕ 赤 ⊖ 黒

12V系
バッテリー

△警告

DC電源ケーブルのヒューズホルダーは、絶対に取りはずさないでください。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-------------|------------------------------------|
| ● HM-154 | ハンドマイクロホン | ● CS-2730 | クローニングソフトウェア
(フリーウェア) |
| ● HM-207 | 多機能ハンドマイクロホン(補修用) | ● OPC-474 | クローニングケーブル
(無線機間用) |
| ● SP-30 | 外部スピーカー(2.8m) | ● OPC-478UC | クローニングケーブル |
| ● SP-35 | 車載用外部スピーカー | ● OPC-1156 | コントローラー延長ケーブル(3.5m)
(中継コネクター付き) |
| ● SP-35L | 外部スピーカー(6m) | ● UT-133 | Bluetooth®ユニット |
| ● MBF-1 | マウントベース(MBA-5用) | ● VS-3 | Bluetooth®ヘッドセット |
| ● MBF-4 | 車載ブラケット | | |
| ● MBA-4 | コンビネーションブラケット | | |
| ● MBA-5 | コントローラー用ブラケット | | |
| ● OPC-589 | 変換ケーブル
(モジュラー 8ピンマイクコネクター) | | |
| ● OPC-837 | コントロールケーブル
(3.5mタイプ：補修用) | | |
| ● OPC-440 | マイク延長ケーブル(5m) | | |
| ● OPC-647 | マイク延長ケーブル(2.5m) | | |

11 Bluetooth®の使いかた

■ Bluetooth®でできること

本製品に別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けると、Bluetooth®対応機器とのワイヤレス接続ができます。本章では、別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けたあとのIC-2730/Dは、本製品と記載します。

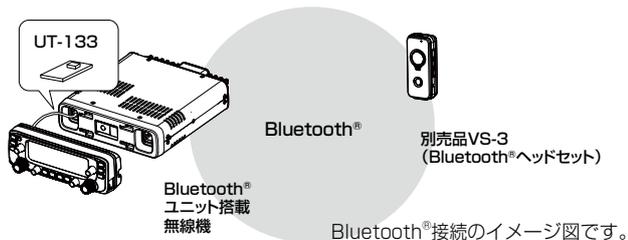
本製品と別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)をBluetooth®で接続することで、マイクロホンの音声をワイヤレスで送信できます。

VS-3には、[PTT]ボタンが付いているため、無線機のマイクロホンと同じ感覚で送信できます。

また、[PTT]ボタンを押さなくても、ヘッドセットからの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能も使用できます。

VS-3の側面にある3つのキーは、本製品でお好みの機能に変更して、リモコン操作することもできます。

Bluetooth®の通信範囲は、約10m(目安)です。



Bluetooth®の通信においては、周辺機器の影響で通信距離が著しく変化します。

- 電子レンジなどによる妨害
- 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。

また、Bluetooth®機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

■ 電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯のBluetooth®で通信をするときは、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- ◎ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。
- ◎ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949 (通話料がかかります)

受付 (平日 9:00~17:00)

■ 電波法についてのご注意

- ◎ 本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けています。
- ◎ 本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- ◎ 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品を使用しないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を与え、生命に危険をおよぼすおそれがあります。
- ◎ 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を与え、生命に危険をおよぼすおそれがあります。
- ◎ 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジを使用すると電磁波の影響により、本製品の無線通信が妨害されるおそれがあります。
- ◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。ご自分で分解や改造をしないでください。

■ 2.4GHz現品表示記号の意味について

「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」：FHSS方式

「1」：想定干渉距離が10m以下

「----」：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

2.4FH1

11 Bluetooth®の使いかた

■ UT-133の取り付けかた

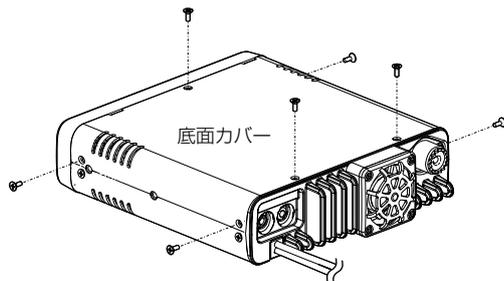
別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を本製品に取り付けることで、Bluetooth®を使用できます。

【ご注意】

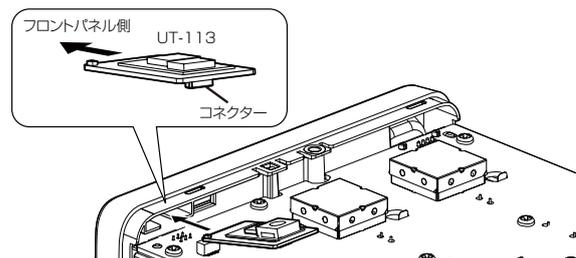
静電気による破損を防ぐため、IC-2730/DやUT-133に触れる前に、身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体からの静電気は、IC-2730/DやUT-133を破損、またはデータを消失させるおそれがあります。

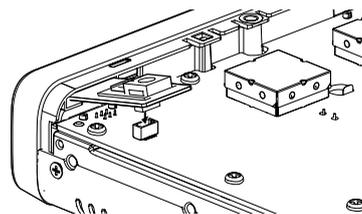
- ① IC-2730/Dの本体を裏返し、底面カバーから3本、両側面から4本、計7本のネジをはずします。
- ② 底面カバーを取りはずします。



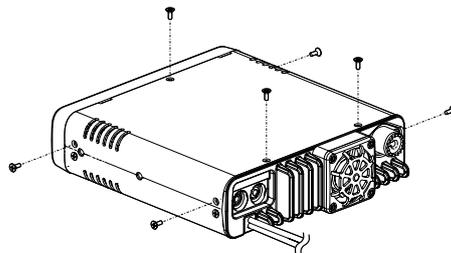
- ③ UT-133のコネクターを下にして、IC-2730/Dのフロント部にあるくぼみに挿入します。



- ④ UT-133のコネクターをIC-2730/Dのコネクターにはめ込みます。



- ⑤ 底部カバーを元に戻し、計7本のネジを締めます。



■ ペアリングのしかた

Bluetooth®ヘッドセットは、以下の手順でペアリングしてください。

1. Bluetooth®機能をONにする

- ① [MENU] (Ⓜ) (Ⓞ)を短く押す。
- ② [DIAL] (Ⓢ)で、「BT」(Bluetooth®)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-BT)
- ③ [DIAL] (Ⓢ)で、「ON」を選択する。
- ④ [↵] (Ⓞ)を押す。

2. VS-3(別売品)をペアリングモードにする

ペアリングモードの操作のしかたは、VS-3の取扱説明書でご確認ください。

3. 本製品をペアリングモードにする

- ⑤ [DIAL] (Ⓢ)で、「PAIR」を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-PAIR)
- ⑥ [↵] (Ⓞ)を押す。
 - 「PAIRING」が点滅し、ペアリングを開始します。
 - 接続中は、「CONNECTING」が点滅します。接続すると、「CONNECTED」が表示されます。
- ⑦ [MAIN BAND] (Ⓞ)を短く押す。
 - EXMENUモードを解除します。
 - 接続中は、下図のようにBluetooth®のアイコンが表示されます。



【ご参考】再検索するには

ヘッドセットが見つからず、「FAILED」が表示されたら、[↵] (Ⓞ)を押して、再度検索してみてください。

【ご参考】自動接続するには

本製品の「AT CON」(自動接続機能)をONに設定しておいた状態で、本製品の電源を入ると、ヘッドセットの電源を入ただけで自動で接続します。(初期設定値：ON) (P15)

11 Bluetooth®の使いかた

■ VOX機能の使いかた

送信ボタンを押さなくても、ヘッドセットからの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を搭載しています。

【ご参考】

VOX機能は、Bluetooth®ヘッドセットを使っているときだけ動作する機能です。

本製品に接続しているマイクロホンでは動作しません。

◇ VOX機能の設定のしかた

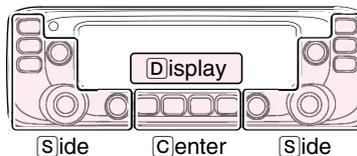
- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「VOX」(VOX機能)を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-HS SET > HSSET-VOX > VOX-VOX)
- ③ [↵] (D) を押す。
- ④ [DIAL] (S) で、「ON」を選択する。
- ⑤ [MAIN BAND] (C) を短く押す。
 - EXMENUモードを解除します。



◇ VOX感度の設定のしかた

- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「VOX LV」(VOXゲイン)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-HS SET > HSSET-VOX > VOX-VOX LV)
- ③ [↵] (D) を押す。
- ④ [DIAL] (S) で、VOX感度を選択する。
 - ヘッドセットに向かって、通話するときと同じ大きさの声を出しながら [DIAL] (S) を回して設定します。
 - 送信になるレベルの音声入力があると、ディスプレイに「VOX」が表示されます。

※ VOX感度を上げる(数値を大きくすると、比較的小さな声でも送信できますが、回りの雑音でも送信しやすくなりますので、ご注意ください。
- ⑤ [MAIN BAND] (C) を短く押す。
 - EXMENUを解除します。
 - ※ S/RFメーターが継続して振らない場合は、EXMENUの「VOX.DLY」(VOXディレイ)項目で、遅延時間を十分な長さに設定してください。
 - ※ VOX機能使用時、送信中に [DIAL] (S) を回すとVOX感度が切り替わります。



説明文中のC、S、またはDは、コントロールの操作部分を示しています。

C: Center (中央)

S: Side (サイド)

D: Display (表示部)

◇ VOX機能の詳細設定について

VOX機能の詳細は、EXMENUの「VOX.DLY」(VOXディレイ)項目、「VOX.TOT」(VOXタイムアウトタイマー)項目で設定できます。使用環境やヘッドセットにあわせて変更してください。(※P15)

- **VOXディレイ「VOX.DLY」**
送信停止までの遅延時間を設定します。
- **VOXタイムアウトタイマー「VOX.TOT」**
連続して送信できる時間を制限します。

【ご注意】

Bluetooth®ユニット搭載無線機側で、受信中、またはピープ音が鳴っているときはVOX送信を禁止します。

【ご注意】

VOX感度は、マイク感度の影響を受けます。VOX機能を使用するときは、EXMENUの「VOX LV」(VOXゲイン)項目でVOX感度を設定する前に、「MIC G」(マイクゲイン)項目、またはBluetooth®ヘッドセット本体でマイク感度を調整することをおすすめします。

11 Bluetooth®の使いかた

■ その他のヘッドセット設定

◇ AF出力切替について

Bluetooth®ヘッドセット接続時、ヘッドセットのイヤホン以外に無線機のスピーカーから受信音を聴きたいときは、「AF OUT」(AF出力切替)項目を「HS+SP」(ヘッドセット&スピーカー)に設定することで、受信音を同時に聴くことができます。

- ① [MENU] (M) (Ⓞ) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「AF OUT」(AF出力切替)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-HS SET > HSSET-AF OUT)
- ③ [J] (D) を押す。
- ④ [DIAL] (S) で、「HS+SP」を選択する。
- ⑤ [MAIN BAND] (C) を短く押す。
 - EXMENUを解除します。
 - 受信時は、ヘッドセットと本製品から音声が出力されます。

◇ VS-3について

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)の詳細な設定ができます。また、VS-3の[PLAY]ボタン、[FWD]ボタン、[RWD]ボタンは、「[COMHS]」(アイコムヘッドセット)設定の中の「[CUST K]」(カスタマイズキー)項目で機能を割り当てできます。(※P15)

● パワーセーブ「PoSAVE」

受信音がないとき、VS-3への接続を一時的に切りVS-3の電池を長持ちさせる機能です。

※ VOX運用時は動作しません。(※P68)

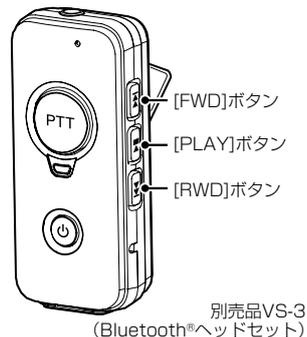
- **ワンタッチPTT「PTT」**
VS-3の[PTT]ボタンを押すごとに、送信/受信を切り替える機能です。(※P15)

- **PTTビープ「PTT B」**
[PTT]ボタンを押したときにヘッドセット側でビープ音を鳴らす/鳴らさないの設定をする機能です。
無線機本体のビープ設定とは独立しており、両方ONに設定している場合、どちらも鳴ります。(※P15)

- **カスタマイズキービープ「CUST B」**
[PLAY]ボタン、[FWD]ボタン、[RWD]ボタンを押したときに、ヘッドセット側でビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定する機能です。
無線機本体側のビープ設定とは独立しており、両方ONに設定している場合、どちらも鳴ります。(※P15)

- **カスタマイズキー「CUST K」**
[PLAY]ボタン、[FWD]ボタン、[RWD]ボタンに機能を割り当てできます。(※P15)

※ 送信中での機能を割り当てることはできません。



■ 最大ペアリング数について

本製品にペアリング登録できるBluetooth®機器は、最大7台です。

■ 切断のしかた

Bluetooth®接続を切断するとき、Bluetooth®ヘッドセットの電源を切るだけで切断できますが、本製品から切断するとき、下記の手順で操作してください。

- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「DISCON」(切断)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-DISCON)
- ③ [↵] (D) を押す。
 - 「DISCONNECT」が点滅します。
- ④ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - EXMENUモードを解除します。

■ ペアリング登録機器の削除のしかた

ペアリングしたBluetooth®対応機器の登録情報を本製品から削除できます。

接続中のBluetooth®対応機器を削除したい場合は、上記の「■切断のしかた」に示す手順で先に切断してから、削除してください。

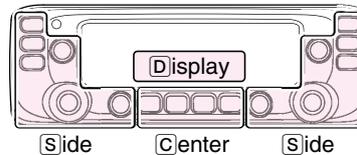
- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「CONNEC」(接続)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-CONNEC)
- ③ [↵] (D) を押す。
- ④ [DIAL] (S) で、削除したいBluetooth®対応機器を選択する。
- ⑤ [CLR] (D) を押す。
 - 「DELETE ?」が表示されます。
- ⑥ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。

- ⑦ [↵] (D) を押す。
 - ペアリングリストから削除されます。
- ⑧ [MAIN BAND] (S) を短く押す。
 - EXMENUモードを解除します。

■ 初期化のしかた

Bluetooth®の各機能設定は、パーシャルリセットやオールリセット操作で初期化できますが、機器名称とペアリング情報を初期化するとき、以下の手順で操作してください。

- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「INITBT」(初期化)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-BT SET > BTSET-INITBT)
- ④ [↵] (D) を押す。
 - 「INITBT ?」が表示されます。
- ⑤ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑥ [↵] (D) を押す。
 - 初期化されて、運用画面が表示されます。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- C: Center (中央)
- S: Side (サイド)
- D: Display (表示部)

12 定格

■ 一般仕様

- 送信周波数範囲：
144.000~146.000MHz
430.000~440.000MHz
- 受信周波数範囲：
(FM/FM-N) 137.000~174.000MHz
375.000~379.895MHz
382.100~411.895MHz
415.100~550.000MHz
(AM/AM-N) 118.000~136.99166MHz
※ 組み合わせによっては、サブバンドがミュートされます。
- 使用温度範囲：-10~+60℃
- 周波数安定度：±2.5ppm以内*(-10~+60℃)
★ 25℃を基準とする
- 周波数分解能：5、6.25、8.33、10、12.5、15、
20、25、30、50kHz
※ 運用バンドや、運用モードによって
は、選択できない場合があります。
- メモリーチャンネル数：1000チャンネル
- プログラムチャンネル数：50チャンネル(2チャンネル×25組)
- コールチャンネル数：2チャンネル
- 電源電圧：DC 13.8V
(外部電源端子)

- 消費電流：
待ち受け時 1.2A
受信最大出力時 1.8A
送信最大出力時 7.5A (IC-2730)
13.0A (IC-2730D)
- 接地方式：マイナス接地
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡(M型)
- 外形寸法：
コントローラー 150.0(W)×50.0(H)×27.2(D)mm
本体 150.0(W)×40.0(H)×151.0(D)mm
(突起物を除く)
- 重量：
コントローラー 約140g
本体 約1.2kg

■ 送信部

- 電波型式：F2D、F3E
- 変調方式：FMリアクタンス変調(FM、FM-N)
- 最大周波数偏移：±5.0kHz以下(FM)
±2.5kHz以下(FM-N)
- マイクロホンインピーダンス：600Ω
- スプリアス発射強度：-60dBc以下
(スプリアス領域/帯域外領域)
- 送信出力：20、10、2.0W(IC-2730)
50、15、5.0W(IC-2730D)

■ 受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数：

(左側バンド)	38.85MHz (1st IF)
	450kHz (2nd IF)
(右側バンド)	46.35MHz (1st IF)
	450kHz (2nd IF)
- 受信感度：(スプリアスポイントは除く)
(FM/FM-N) - 15dB μ 以下(12dB SINAD)

FM/FM-N 12dB SINAD

(アマチュア帯を除く)

137.000~159.995MHz	- 10dB μ 以下
160.000~174.000MHz	- 5dB μ 以下
375.000~399.995MHz	- 5dB μ 以下
400.000~499.995MHz	- 10dB μ 以下
500.000~550.000MHz	- 5dB μ 以下
AM/AM-N(10dB S/N)	
118.000~136.99166MHz	0dB μ 以下

- スケルチ感度：-18dB μ 以下(Threshold)
- 選択度：

(FM)	60dB以上
(FM-N)	55dB以上
- スプリアス妨害比：60dB以上
(Aバンド UHF : 55dB以上)
- 低周波出力：2.0W以上(8 Ω 負荷、10%歪時)
- 低周波負荷インピーダンス：8 Ω

13 リセット/困ったときは

■ リセットについて

静電気などによる外部要因で、本製品の動作や表示内容に異常があると思われた場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも改善しない場合は、次のようにパーシャルリセット、またはオールリセット操作をしてください。

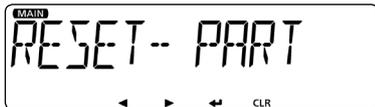
◇ パーシャルリセットのしかた

◎ パーシャルリセット操作をしても、下記のデータはそのまま残ります。

- メモリーチャンネルデータ
- スキャンエッジ
- コールチャンネル
- DTMFメモリー

- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「RESET-PART」(パーシャルリセット)項目を選択する。

(MENU-EXMENU > EXMEN-OTHERS >
OTHER-RESET > RESET-PART)



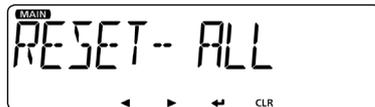
- ③ [↵] (D) を短く押す。
 - 「RESET?」が表示されます。
- ④ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑤ [↵] (D) を短く押す。
 - パーシャルリセットしたあと、初期画面を表示します。

◇ オールリセットのしかた

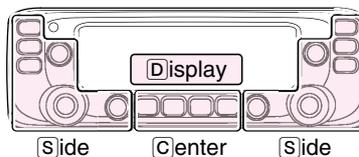
オールリセット操作をしたときは記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

メモリーチャンネルの内容もすべて消去されるので、もう一度運用に必要な周波数や運用モードなどを書き込んでください。

- ① [MENU] (C) を短く押す。
- ② [DIAL] (S) で、「RESET-ALL」(オールリセット)項目を選択する。
(MENU-EXMENU > EXMEN-OTHERS >
OTHER-RESET > RESET-ALL)



- ③ [↵] (D) を短く押す。
 - 「RESET?」が表示されます。
- ④ [DIAL] (S) で、「YES」を選択する。
- ⑤ [↵] (D) を短く押す。
 - オールリセットしたあと、初期画面を表示します。



説明文中のC、S、またはDは、コントローラーの操作部分を示しています。

- Ⓢ: Center (中央)
- Ⓢ: Side (サイド)
- Ⓢ: Display (表示部)

■ トラブルシューティング

下記の現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現 象	原 因	処 置	参 照
● 電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 電源ケーブルの接触不良 ◎ ヒューズの断線 ◎ 電源電圧が適切でない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 接続をやりなおす ● 原因を取り除き、ヒューズを取り替える ● 電源電圧を13.8Vに調整する 	— — —
● 音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ [VOL]を反時計方向に回し切っている ◎ 外部スピーカーの接続ケーブルが切れている ◎ ミュート機能が動作している 	<ul style="list-style-type: none"> ● [VOL]を回して、音量を設定しなおす ● 接続ケーブルを点検して、正常にする ● ミュート機能を解除する 	P22 — P1
● 感度が悪く、強い局しか聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ アンテナの不良、または同軸ケーブルのショート・断線 ◎ アッテネーター機能がONに設定されている ◎ [SQL]ツマミを時計方向に回し切っている 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナと同軸ケーブルを点検し、正常にする ● アッテネーター機能をOFFにする ● [SQL]ツマミを反時計方向に回して、スケルチを調整する 	— P13 P22
● 送信しても応答がない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違う 	<ul style="list-style-type: none"> ● デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする 	P46
● 周波数が異常な表示になっている	<ul style="list-style-type: none"> ◎ CPUが誤動作している ◎ 静電気などによる外部要因 	<ul style="list-style-type: none"> ● リセットする ● 電源を接続しなおす 	P74 —

13 リセット/困ったときは

現 象	原 因	処 置	参 照
● 電波が出ないか、電波が弱い	<ul style="list-style-type: none"> ◎ LOW/MID出力のいずれかの設定になっている ◎ PTTロック機能が動作している ◎ ビジーロックアウト機能が動作している ◎ 送信時、アマチュアバンド以外に設定されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● HIGH出力にする ● PTTロック機能を解除する ● ビジーロックアウト機能を解除する ● アマチュアバンド以外は送信できないので、周波数をアマチュアバンドに設定する 	<p>P22</p> <p>P13</p> <p>P13</p> <p>P21</p>
● 周波数の設定ができない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ロック機能が動作している ◎ メモリーモード、またはコールチャンネルモードになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロック機能を解除する ● [V/MHz SCAN]を短く押して、VFOモードにする 	<p>P22</p> <p>P20</p>
● プログラムスキャンが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ VFOモードになっていない ◎ プログラムスキャンエッジの上限周波数と下限周波数に同じ周波数書き込まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ● [V/MHz SCAN]を短く押して、VFOモードにする ● 上限周波数と下限周波数に違う周波数を書き込む 	<p>P20</p> <p>P35</p>
● メモリースキャンが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ メモリーモードになっていない ◎ M-CHIに2CH以上書き込まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● [MR CALL]を短く押して、メモリーモードにする ● 2CH以上をM-CHIに書き込む 	<p>P20</p> <p>P26</p>
● 受信信号が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> ◎ マイクロホンからの音声レベルが大きすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 普通の大きさの声で送信する 	<p>P22</p>
● サブバンドが受信できない	<ul style="list-style-type: none"> ◎ サブバンドミュート機能が動作している 	<ul style="list-style-type: none"> ● サブバンドミュート機能をOFFにする 	<p>P14</p>
● 送信しても、途中で受信状態になる	<ul style="list-style-type: none"> ◎ タイムアウトタイマー機能が動作している 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイムアウトタイマー機能をOFFにする 	<p>P13</p>

■ アフターサービスについて

75ページの「**■トラブルシューティング**」にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

■保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

■保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 弊社製品のお問い合わせ先について
お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

13 リセット/困ったときは

■ パワープロテクト機能について

連続送信などにより内部温度が上昇すると、本体保護のために強制的にLOWパワー設定となる機能です。

パワープロテクト機能が動作するときは、電源電圧、接続しているアンテナを確認、または本体が冷めてから運用してください。

◎ 過電圧が印加された場合は、「OVER V」と表示され、警告音を鳴らします。

場合によっては、本製品が破損しているかもしれませんので、異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

■ ヒューズの交換

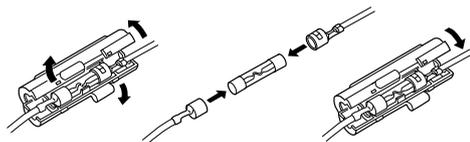
ヒューズが切れ、本製品が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

- ① DC電源ケーブルのヒューズホルダーを下図のように開きます。
- ② 切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズを元どおりに取り付けます。

ヒューズの定格

IC-2730/IC-2730D : 15A

ヒューズ交換のしかた



【ご注意】

ヒューズを交換するときは、必ずDC電源ケーブルを電源から取りはずしてください。

△警告

指定以外のヒューズは絶対に使用しないでください。
また、ヒューズホルダーを切断して接続しないでください。
発火、火災などの原因となります。

本製品は技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた「技術基準適合送受信機」です。

免許の申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。なお、総務省のホームページ「電波利用 電子申請 届出システム」<http://www.denpa.soumu.go.jp/public/index.html> でも免許申請できます。

■ 無線局事項書の書きかた

●第3級アマチュア無線技士以上のかたがIC-2730Dを申請する場合

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式				空中線電力	希望する周波数
	<input type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 5.0M	<input type="checkbox"/> A1A <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA					W <input type="checkbox"/> 1200 <input type="checkbox"/> 2400
	<input type="checkbox"/> 50M <input type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> 4VF			W <input type="checkbox"/> 50W <input type="checkbox"/> 50W	<input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 20W <input type="checkbox"/> 20W
		<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> 4VF			W <input type="checkbox"/> 50W <input type="checkbox"/> 50W	<input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 20W <input type="checkbox"/> 20W

●第4級アマチュア無線技士のかたがIC-2730を申請する場合

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式				空中線電力	希望する周波数
	<input type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 5.0M	<input type="checkbox"/> A1A <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA					W <input type="checkbox"/> 1200 <input type="checkbox"/> 2400
	<input type="checkbox"/> 50M <input checked="" type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> 4VF			W <input type="checkbox"/> 50W <input type="checkbox"/> 50W	<input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 20W <input type="checkbox"/> 20W
		<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> 4VF			W <input type="checkbox"/> 50W <input type="checkbox"/> 50W	<input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 20W <input type="checkbox"/> 20W

■ 工事設計書の書きかた

終段管の名称と個数、電圧については、送信機系統図(※P80)に記載された、PWR AMPの名称と個数、電圧を記入してください。

装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	放射可能な電波の型式及び周波数の範囲	※ 整理番号	変調方式	終段管 名称個数 電圧	定格出力 (W)
第1送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	工事設計認証番号 (認証番号)を記入	144MHz帯 } 430MHz帯 } F2D,F3E		F2D,F3E: FMJアクトクス変調		IC-2730Dの場合 144MHz帯: 430MHz帯: 50W IC-2730の場合 144MHz帯: 430MHz帯: 20W
送信空中線の型式							
添付図面							
				局/数測定装置の有無	<input type="checkbox"/> 有(誤差0.025%以内) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
				<input checked="" type="checkbox"/> 送信機系統図		その他の工事設計	
				<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。			

本体に、技術マークと認証番号が記載されたシリアルナンバーシールを貼っています。その認証番号を記入してください。
必ず申請に使用するトランスミッター本体でご確認ください。

移動する局(空中線電力が50W以下の局)は記入の必要はありません。

認証番号を記入しているときは、記入する必要はありません。
付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブスターなど)を付ける場合は、非技術基準適合送受信機となりますので、一般財団法人 日本アマチュア無線振興協会(JARD)、またはTSS株式会社の保証認定を受ける必要があります。
したがって、網かけ部分に放射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信機系統図を添付して申請してください。
※工事設計書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

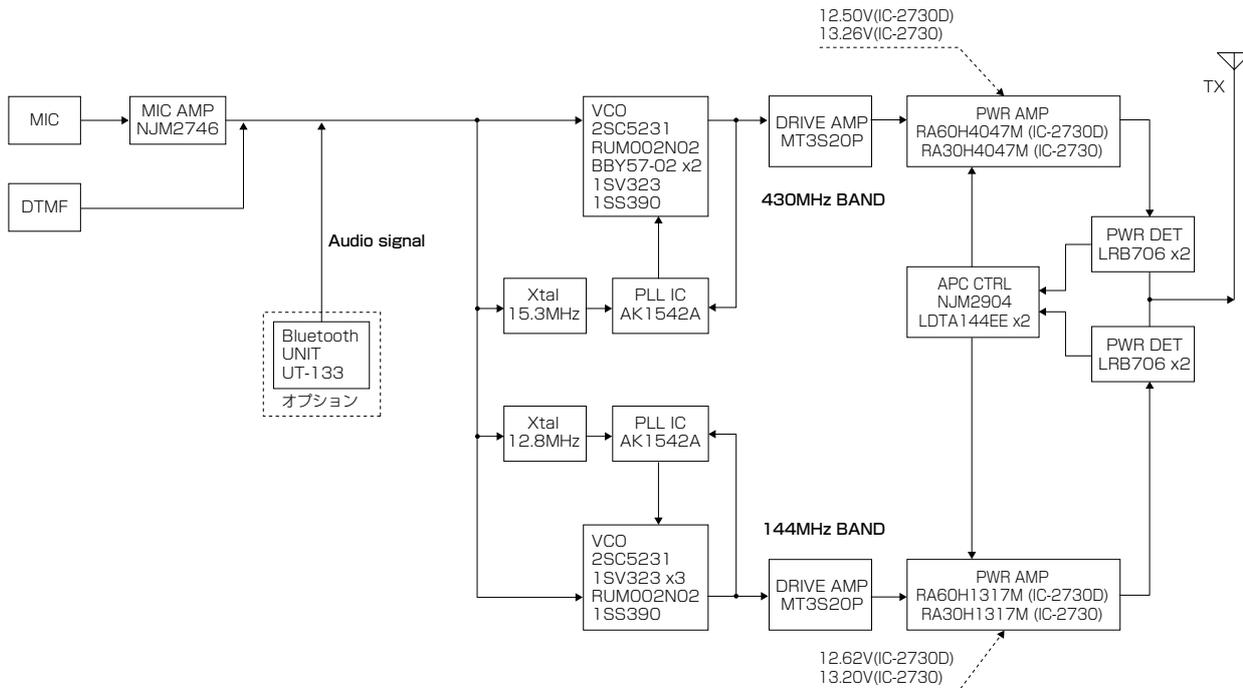
◇保証認定の申請について 必要事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を「無線局申請書」に添えて、下記のどちらかに申請してください。

一般財団法人 日本アマチュア無線振興協会(JARD) JARD保証事業センター
〒170-8088 東京都豊島区巢鴨3丁目36番6号 共同計画ビル
TEL: 03-3910-7241

TSS株式会社
〒112-0011 東京都文京区千石4-22-6 TSS株式会社 保証事業部
TEL: 03-5976-6411

14 免許申請について

- 送信機系統図



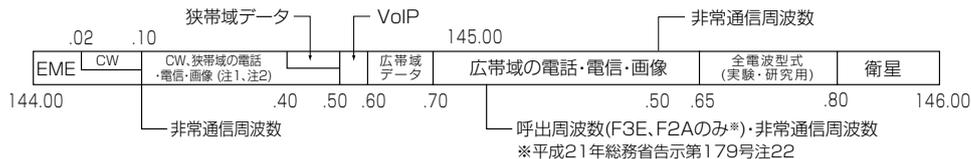
■ バンドの使用区別(バンドプラン)について

電波を発射するときは、下記の使用区別図にしたがって運用してください。

なお、バンドプランは、改定される場合があります。

最新の情報は、JARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

144MHz帯 周波数:MHz



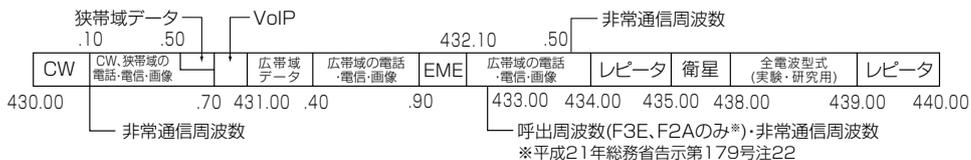
【注1】144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信にも使用できる。

この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。

【注2】144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信および画像通信にも使用することができる。

狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

430MHz帯 周波数:MHz



狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

こ		
工事設計書の書きかた……………	79	
コールチャンネル(CALL-CH)の呼び出しかた	25	
個人情報の取り扱いについて……………	i	
固定運用時のアンテナについて……………	61	
コントローラーと本体の接続のしかた	57	
コントローラーの設置……………	58	
コントローラーを車内に固定するには	58	
コントローラーを壁面に取り付けるには	59	
さ		
最大ペアリング数について……………	71	
さくいん……………	82	
サポートセンター……………	77	
し		
車内への設置場所について……………	60	
周波数とM-CH設定のしかた……………	6	
周波数を設定する……………	21	
受信部……………	73	
受信モード(電波型式)を設定する……………	23	
受信モニター機能について……………	23	
初期化のしかた……………	71	
信号を受信すると……………	34	
す		
スキップ周波数の解除……………	38	
スキップ周波数の登録……………	38	
スキップ周波数の登録と解除について	38	
スキップチャンネルの指定と解除について	40	
スキャン周波数の登録……………	35	
スキャンストップ時のビーブ音設定……………	34	
スキャン中の[DIAL]操作について……………	33	
スキャンについて……………	32	
スキャンネームについて(VFOスキャン)	34	
スキャンネームの登録……………	35	
せ		
切断のしかた……………	71	
設置と接続……………	57	
設定項目の選択方法……………	10	
前面パネル(コントローラー)……………	1	
そ		
送出手のコードを直接入力する……………	50	
送信時のオフバンド表示について……………	47	
送信出力を設定して交信する……………	22	
送信部……………	72	
その他のヘッドセット設定……………	70	
ち		
チャンネルの呼び出しかた……………	25	
チャンネルを指定して書き込む……………	26	
チューニングステップについて(VFOスキャン)	33	
チューニングステップの登録……………	36	
チューニングステップを変えるには……………	21	
て		
定格……………	72	
ディスプレイ……………	2	
デュプレックス運用について……………	46	
デュプレックス(DUP)スキャン……………	33	
デュプレックスモードで交信する……………	47	
デュプレックスモードの設定……………	46	
電源の接続……………	62	
電波干渉についてのご注意……………	65	
電波法についてのご注意……………	ii, 65	
電波を発射する前に……………	ii	
と		
問い合わせ先……………	77	
同軸ケーブルについて……………	61	
登録商標/著作権について……………	i	
トーン周波数を設定するには……………	53	
トーンスキャン……………	33	
トーンスケルチ機能……………	52	
トーンスケルチの操作……………	52	
トラブルシューティング……………	75	
取扱上のご注意……………	i	
な		
内蔵のデュプレクサーについて……………	61	
内部スプリアスについて……………	iii	
は		
パーシャルリセットのしかた……………	74	
はじめに……………	i	
パワープロテクト機能について……………	78	
バンクの割り当てかた……………	28	
バンドの使用区別(バンドプラン)について	81	
バンドプラン……………	81	

高品質がテーマです。